京城日報

◎英海軍敵艦二隻擊沈
ドーヴァー海峽の會戰　五隻より成る獨逸驅逐艦隊

英國海軍省の發表する處に曰く金曜日夜五隻より成る獨逸驅逐艦隊はドーヴァー海峽の襲擊を企てドーヴァーより數哩を隔てたる高地に向つて盛に砲擊を爲せるがドーヴァー海峽巡邏艦二隻と會し遂に少くも小海戰を起せり我艦隊は交戰五分間にして尠くも敵艦二隻を擊沈せるが殘餘の三隻は暗にまぎれて遁走せるが如し我艦隊には物質上の損害皆無にして海戰の激烈なりしに比すれば死傷數も極めて輕微なり我艦隊は敵將校十名水兵八十名を救助せり(倫敦電報)

◎英軍、村落占領公報

公報に曰く英軍はゴンネルの村落を占領せり(倫敦電報)

◎佛獨兩軍砲戰激烈

佛軍はリールシー東方よりジユピンクール南方に至る戰線に於て行はれし砲彈戰に於て勝利を得たりクラオレヌ東方及びライムス北方に於て激烈なる砲戰進行中なり(巴里電報)

◎墺內閣總辭職せん

墺國閣員は講和問題に關聯し近かく總辭職をなす可し(倫敦電報)

◎兩氏陞任說　內務

內務省土木局長小橋一太氏は內務次官に內務次官法學博士水野錬太郎氏は鐵道院總裁に何づれも近かく陞任すべしとの說あり(東京電報)

◎下院議長問題

衆議院議長は元田肇、大岡育造、小川平吉の三氏中より出づべしとの說專らなり(東京電報)

◎選擧結果

其の後判明せる郡部の當選者左の如し(東京特電)

▲鹿兒島縣(七名)
西村　禮藏(政、新)
荻　亮(政、新)
兒玉　好熊(政、新)
神川　長久(政、前)
志々目　藤彥(政、前)
奧田　榮之進(政、前)
中村　靜興(中、新)

▲大島郡(一名)
林　爲良(政、新)

▲沖繩縣(二名)
我如古　樂一郎(中、新)
護得久　朝雄(憲、前)

▲愛知縣(十一名)
瀨　正雄(政、新)
淸水　市太郎(政、前)
三輪　市太郎(政、前)
小山　溫(政、新)
大口　喜六(國、元)
奧村　三樹之助(政、新)
日比野　寬(憲、新)
田中　善立(憲、前)
堀尾　茂助(政、元)
大島　久滿次(政、前)
鈴置　倉次郎(憲、前)

◎當選者黨派別
政府黨五十一名の大多數

今回總選擧の結果政友會百六十二名政府贊成無所屬五十四名計二百十六名　憲政會百二十一名國民黨三十五名政府反對無所屬九名計百六十五名の當選者を見結局政府黨は五十一名の多數を得たり(東京特電＝號外再錄)

◎馬場參事官歸東

李王家典範調査の爲め來鮮し京城滯在中なりし法制局參事官馬場鍈一氏は二十二日夜出港の連絡船高麗丸にて歸東の途に就けり(釜山特電)

◎笠井工學博士

工學博士笠井眞三氏は廿二日夜出港關釜連絡船高麗丸にて內地へ向ふ(釜山特電)

◎高宮海軍々醫中監

海軍々令部附海軍々醫中監高宮隆氏は二十二日午後鎭海より來釜同夜出港高麗丸にて歸東せり(釜山特電)

◎軍事會議其後

北京に開催さる可き軍事大會議に參列の爲め既に入京せるは王湖北、曹直隸、李江西、趙河南、孟吉林、閻山西、陳廣東、李福建、張山東の九氏にて奉天、黑龍、雲南、貴州、陝西、甘肅、四川、湖南、安徽、南京、浙江及び各特別區域は多く代表者を派遣する筈なるが茲に注目す可きは入京督軍の多くが北洋派に屬する者なる事之なり但だ南派に屬する浙江督軍楊善德氏が來會せざるは實際新任早々にて離任し難きに因るものなれど馮副總統の不參は別に深き意味あるものと見られつゝあり猶開會は早くも二十五六日頃となる可く會議案は數十件の多きに上るも其骨子は戰團加入問題と軍制統一の二問題なり(北京)

◎煤鐵擴張著手

本溪湖煤鐵公司は過般株主總會の決議に據り採炭製鐵共に擴張する事となりたるが不取敢四百萬圓を投じて炭業の擴張を圖る可く目下著々其工程を進めつゝあり元來該公司の一年出炭額は三十五萬噸に過ぎざりしが來る十月には現在擴張工事中の熔鑛爐完成す可く之れと同時に滿鐵鞍山製鐵業も開始され其所要炭の一部は本溪湖炭を供給するの約あり該公司は是非とも同期日迄に自家用並に滿鐵用の爲め多額の石炭を提供せざるを得ざるを以て目下極力採炭增量工事を急ぎつゝありと(本溪湖)

◎總督北鮮巡察

長谷川總督は愈北鮮地方巡察に決し宇佐美內務部長官、古海事務總長、釜屋武官、遊佐副官、神田秘書官、能波通譯官等を隨へ二十四日午前十一時四十分南大門驛發特別列車に搭乘出發す當日は元山著後直ちに乘船咸興に向ふ可く元山視察は歸路の由にて旅程は約八日間五月一日歸京の豫定なり

◎辭令

二十一日附を以て左の通り辭令ありたり

朝鮮總督府判事　中村竹藏
朝鮮總督府技師　川崎繁太郎
歐米に出張を命ず(各通)
朝鮮總督府試補を命ず　松澤國治
年俸六百圓下賜

◎領事團招待宴

久水外事課長夫妻は既記の如く二十三日午後七時三十分より京城駐在各國領事團員の主なるもの並に其の夫人令孃を朝鮮ホテルに招待晩餐會を開けり

◎外事課長張宴

久水外事課長は二十三日夜朝鮮ホテルに招待せる京城駐在外國領事團員夫人令孃等以外の夫人令孃を二十四日午後四時より官邸に招待觀櫻宴を張る

◎四月上半　朝鮮貿易
當月總額七百七十五萬餘圓　累計總額四千百七十五萬圓　出入漸次權衡を得むとす

▲上半貿易額　四月上半朝鮮貿易は輸移出品價三百六萬四百餘圓輸移入品價四百六十九萬六千二百餘圓にして合計七百七十五萬六千六百餘圓を算し、貿易の權衡は百六十三萬五千七百餘圓の入超を見たり、而して之れを前年同月に比するに、輸移出に於て百三十七萬餘圓、輸移入に於て二百二十七萬餘圓の增加にして總額に於て三百六十四萬圓の增加を示し貿易額は出入共に異常の膨脹を來せり

▲累計貿易額　次ぎに一月以降の累計を見るに輸移出二千七萬六千餘圓、輸移入二千百六十七萬七千餘圓、合計四千百七十五萬三千餘圓を算し貿易の權衡は百六十萬餘圓の入超を告げたり、而して之を前年同期間に比するに輸移出に在りては六百七十四萬餘圓、輸移入に在りては三百四十九萬餘圓の增加にして合計一千二十四萬餘圓の激增を見たるのみならず前年同期の入超四百八十四萬餘圓に對して漸く如上の入超に止まれる等貿易の趨勢著々健全の域に進みつゝあり

▲出入重要品　今四月上半並に一月以降累計に依る輸移出入重要品價を示せば左の如し

▲輸移出重要品(圓)

品名	四月上半	一月以降累計
米	一、四二二、四〇〇	五、七〇一、三四四
豆類	二八九、九七九	一、五一一、四七九
魚類	五八、六四〇	一六四、〇七六
人蔘	三、三〇八	四、二八三
棉花	一四八、六九九	一、〇〇四、一九七
繭	四六、五七八	四五、〇五〇
金鑛及砂鑛	四一、九五〇	五二、八一九
鐵鑛	三、三七四	五三、八七九
重石鑛	九四、〇七四	三四四、八〇〇
黑鉛	一二、八八四	一一八、八九二
含金銀粗銅	二五四、九七〇	五三一、三八八
牛皮	一〇二、七七四	一、〇八四、二九九
皮革製品	三三三	七、四七一
煙草	四〇、三七二	九九、六三七
生牛	三七、四〇九	一二七、一九三
肥料	四二、三七七	一七一、〇四一

▲輸移入重要品(圓)

品名	四月上半	一月以降累計
粟	四五、一八〇	二〇七、一一七
小麥粉	三九、三三一	三三七、四五五
食鹽	六一、六五四	一八六、二〇五
砂糖	九一、〇六四	四五五、二九一
清酒	二三、四六三	一四七、九二二
麥酒	三三、二七六	八八、八七六
石油	七四四、〇〇六	八九四、二三二
綿絲	二九五、〇一四	一、三五九、九四四
生金巾	一三二、〇三七	一、五一四、一〇九
晒金巾	一三二、〇五〇	六三九、八三七
大巾布	二二、六九九	一四二、九六五
綿繻子類	二八、八二六	八六、四一〇
日本木綿	一七三、四六四	八五二、二九五
支那麻布	五三、九〇九	一〇九、〇九四
毛織物	二三、一九〇	一五七、五一一
絹織物	二七、七六一	一七四、四六〇
紙	一二四、九〇八	六九六、六七二
[illegible]	六三、七一四	二五七、三四九
鐵(管及板)	一六、九六七	六五、〇五二
軌條及附屬品	三八、七七五	八〇、二四七
鐵道車輛	二八、九四八	二三六、九四五
煙草	五六、六四八	一七四、六四五
生皮及獸皮	一九、五五〇	一八〇、九六〇
石炭	八七、五八八	六七二、八〇九
木材及板	四六、〇五六	四〇〇、七五二
セメント	三〇、一三三	一四八、二九〇
罐詰及壜詰	二八、〇五五	二二四、四七〇
マッチ	二九、九一二	一四七、四二六

▲出入金銀高　尙ほ四月上半の出入金銀高は輸移出に在りては金貨及び金地金三十二萬一千餘圓、銀貨及び銀地金千餘圓、合計三十二萬二千餘圓を算し輸移入に在りては金貨及び金地金三千餘圓、銀貨及び銀地金一萬餘圓、計一萬四千餘圓に過ぎず、又た一月以降の累計額は輸移出金銀貨及び金銀地金高は二百二十二萬四千餘圓に達せるも輸移入金銀貨及び金銀地金高は僅々十四萬九千餘圓に過ぎず

◎寒氣と紫雲英

當局に於ては南鮮地方に對し從來の綠肥作物として紫雲英の栽培を獎勵せる結果、年一年其作付反別增加せるのみならず栽培の成績また極めて良好にして昨年に在りては出來の如きも一反當り優に一千貫以上の收穫を得たり、然るに防間にては本年は嚴寒殊に烈なりし爲め到る處生育不良に陷り殊に之が栽培地として比較的北方に偏せる忠淸南道に至りては收穫皆無の狀態なりとの說を爲すものあり、昨冬來の近寒は近來珍らしき低溫なりしは事實なるも同道內に於ける紫雲英の生育は平年に比し何等の遜色を見ず現に極めて良好の生育を示し居れるに徵せば斯くの如きは全く杞憂なるを知る可し、要するに紫雲英栽培の成績如何は忠淸南道以南の地方に在りては寒氣は問題にあらず、排水其の他栽培の方法に依りて左右せらるゝものなれば、之れ等の方法にして遺憾なきを得ば豫期の成績を得ること確實なり(三井技師談)

◎和田總務課長歸京

支那交通部員を見送れる和田總務課長は井上副參事と共に二十二日夜安東縣より歸京せり

◎私立學校教員試驗

京畿道にては來る二十九日より三十一日迄三日間道廳に於て私立學校教員試驗を施行する由、志望者は五月十五日迄所轄府郡を通じ願書に五十錢收入印紙を貼付し京畿道私立學校教員試驗委員長宛提出すべしと而して試驗日程左の如し

二十九日及び三十日、午前八時より筆記試驗、三十一日、午前八時より口述試驗

◎納稅者に注意

京城府市街地稅第一期納期は四月中にて餘日少きにつき京城、龍山外三箇所の府金庫派出所の內各自便宜の所に至急納入せらるべしとなり因に納期日を經過して尙督促狀を發すれば如何なる稅額に對しても督促手數料三十錢を徵せらるべし

◎平南麥作被害

平南道種苗場長背田耕作氏の談に依れば、小麥カルホルニヤ種は昨冬の激變の爲め枯死したるもの多く收穫豫想は所期の四分の一たる一反步六斗餘の見込みなるより本年の麥作に就いて非常に悲觀するものあれど該監督出の者に寒傷多きは一砂質土にして輕鬆地なると二耕作法の改良法に據れると三肥培十分なる爲めなりし等に歸因すべく一般の麥作に就いては未だ各府郡より的確なる報告に接せざるも已に狀況の知れたる二三郡より推せば總體に於て左程大なる損害はなしと云ふ但し各地とも多少の被害は免れざりし模樣なれば到底昨年の如き收穫を爲す能はざるは勿論なりと(平壤)

◎製肥工場工事

客月設立認可ありたる平壤製肥株式會社工事は本月初旬より柳町敷地地均工事に取掛りたるが其後工事大ひに進捗し會社一棟の空立を終り本館の工場に著手したれば遲くも五月末日迄には全部の工事竣工を告ぐべし(平壤)

【仁川】

▲春季淸潔法終了　仁川春季大掃除は二十三日松林里金谷里を以て終了▲學校組合會　仁川學校組合會は二十三日午後一時より召集寄附金採納の件追加豫算の件其他運動會に關する議事をなす筈▲取引所寄附　仁川米豆取引所にては株主總會の決議に基き今後同所が存在する限り一期金二千五百圓(一箇年五十圓)を仁川學校組合一般教育費中に寄附する事となりたり▲腐敗物處理注意　夏期に向ふと共に魚類青物其他腐敗し易き物は特別の塵芥箱に取集め置き每日掃除人夫に除去せしめざれば蠅の蕃殖を自然に助長するを以て仁川府廳にては各料理店、青物店其他に對し前記の如き注意をなしたるが此際一般人家に於ても右樣の注意をなし蠅の撲滅に全力を注がれたしと▲花卉取締嚴　仁川警察署にては從來月尾島より櫻、躑躅其他草木を伐採したる者に對しては發見次第相當の取締を講じつゝ有りしが時節柄一段の取締を加へる由▲魚住氏歸鄉　仁川米豆取引所に於て永らく勤務し居たりし魚住春俊氏は今回同所を辭したるが廿四日仁川發歸鄉の途に就く筈

【開城】

▲森脇新署長　開城警察新署長森脇警視は去る十八日著任したるが官民有志並に消防組等の出迎者驛構內に滿ち盛況なりき同署長は翌十九日各官公署學校等を往訪して著任の挨拶をなし熱心職務に就く

【平壤】

▲引込線擴張問題　平壤多年の懸案たる驛引込線擴張の問題は最近商工業の勃興に伴うて愈々氣勢を昂め平壤商業會議所より其筋に請願書を提出すべく十九日府廳に進達方を乞ひたり▲組合評議員增員　既報平壤、鎭南浦兩府の學校組合評議員數增員の件は十八日附官報告示第二十八號を以て大正三年朝鮮總督府平安南道告示第三十一號學校組合施行規則第六號に依る組合員の認定の件中平壤學校組合は一萬以上二萬未滿鎭南浦は五千以上一萬未滿と改正する旨道長官より告示ありたれば愈々今期の選擧は平壤は十四名、鎭南浦は十二名(何れも一名增員)を選出することゝなれり▲道府郡書記　道府郡書記前田茂助氏は順川より同前田宇一郎氏は龍岡より同目々澤貞席氏は道書記に同矢良次氏は郡書記に轉補順川郡へ、何れも轉勤を命ぜられたり▲肅川學校組合新財源　肅川學校組合にては財源の目的を以て同地停車場附近の鐵道用地約六千坪の貸下を申請中の處此程許可されたり▲林野整理調査著手　平南道にては四月下旬より大同、龍山、龍淵、斧山各面及び順川郡內、平原郡順安面及び順川郡內南各面の林野整理に著手する筈▲府協議會員任命　平壤府協議會員は淺井任一郎、林錫至、南氏何れも重任の旨發表されたり▲民風改善の好望　平南にては勤儉力行に關し大正二年三月民風改善の告諭を發せるが其後諭告に基き業務を勵み冗費を省き勤儉力行に依つて得たる金錢を記念として貯蓄する組合の設立多く已に二百六七十個に達したるが最近中和郡に於ては一時に八箇所の設立を見たりと▲府吏員增員　平壤府にては府勢の進展と共に事務繁忙を極め爲に各員の動もすれば遲滯の虞あるより吏員增員に就き豫ねて其筋に許可申請中なりし處此程許可の指令に接したり▲軍隅里學校設立　豫ねて認可申請中なりし軍隅里尋常小學校は愈々十九日認可されたるを以て教員著任次第直ちに開校すべし▲商工學校設備　鎭南浦商工學校にて今回教授科目擴張に伴ひ諸般の設備を整ふる必要上特に宇野工業專門學校教授の調査を乞ひたり▲平壤商議役員例會　十九日夜開會されたる同會役員例會は例會のことゝて茶話會となし席上共勵會活用の件及び電燈電力供給問題等種々懇談する處あり共勵會は近く執行機關を設け愈々實行に入るべく電力問題は會社に向つて要望することゝなれる由

【淸津】

▲上水道工事著手　淸津上水道工事本年度補助額は今回總督府本年度實行豫算に編入されし議を經たるを以て愈々本年度より起工に決し既に實施設計の認可を其筋に提出せるが近く認可さるべきを以て五月上旬工事に著手すべく主任(技師)として照井の二日市貞一氏も近々著任の筈なり▲東海岸漁港工事　四萬七千餘圓の起債を以て本年起工に決せし淸津府東海岸漁港北防波堤は本府より榛葉技師本月二十日來淸實地視察の上工事に著手さるべき豫定にて本工事は本年中に完成せしむべきものなり▲記念植樹盛況　四月三日執行すべき記念植樹は咸北地方は氣候の關係上十五日第二日曜日を以て各地共執行されたり▲警務部長赴任　淸津野憲兵中佐は二十日淸津上陸直に鏡城に赴任せり▲檢事著任　淸津支廳新任檢事土谷榮太郎氏は十五日著任せり

滿洲見聞錄(六)
營口にて　西海生
現狀維持の營口

▲營口は衰へた、營口の市況は逐年沈衰の傾向だと云ふ聲が切りに聞ゆる、然し之れは必らずしも正當の聲でないやうだ、何故なれば成程營口は大連や其他が加速度に進展して行く如く一路向上の途を辿つてはゐない、去り乍ら其の貿易が年々衰へ、其出入貨物が段々細つて行くかと云へばさうでない、最近年額統計を示せば、約八九千萬圓一寸億近い貿易の出入額を示し、唯僅に一港で全朝鮮貿易額に肩を並べるとしてある、以て如何に其の盛んなるかが知り得るではないか、之れを明治四十三年頃の最も殷賑な時代に比すると若干衰へてゐるけれど先づ大體より見れば現狀維持の繩張と云つた方が適當だ

▲古い事を今日詮索する迄もないが地圖を披いて見ると營口は滿蒙の曠野を縱流する遼河の河口に位し、奧地貿易には絕好の地位を占めてゐる、これ大連の開かるゝまで水利の便により東三省唯一の呑吐港として其の勢力を滿蒙に及ぼしてゐた所以であらう、所が遼河に殆んど併行する鐵道は南北に通じ、大連の不凍港は經營された、之れに營口に不利な諸種の政策を施設が加はるため、遂に營口は滿蒙各要地の發展に伴はず獨り取り殘されて其の不遇を嘆じてゐる、世界の進步は一日も止まらぬ然るに營口が約十年も同一狀態にあり稍もすると退步の氣味あるは、之れ見方によりては營口の衰微とも云へやう、營口市民が斯く稍しつゝ其の發展策を大に天下に呼號するのは之れも無理でないやうだ、

▲然らば營口は何故衰へたか、其の主な事情の二三を擧ぐると、第一は滿鐵の大連繁榮策たる海港運賃施の惡影響である、海港運賃とは假へば奉天より安東までの百七十一哩も大連への二百四十八哩も而して其の半ばにすぎぬ此の營口への僅々六十三哩も滿鐵の所定貨物運賃は同一貨率である、之れがため從來營口に吐口を求めてゐた貨物は自然求むべき貨物もドシドシ大連へ南下して終ふ、何故なれば大連より特產物を原產の儘若くは加工してでも各需要地に積出すには營口からに比し(一)距離近く運賃も低い(二)埠頭に完備し船腹も多い(三)金融の便も十分に開かれてゐる(四)物產取引所も整備してゐるからである

▲第二は營口港灣の價値が巨費を投じ築設した大連に比し問題にならぬ程よくない、營口より海に出る迄十哩餘の間に移動し易い洲が二つ三つある、從つて大船は入つて來ぬ、入つても船腹擱れの虞れあり、滿載は到底出來ない、かくすべての船の航行に若干の危險がある、ために荷物が外の港になければ兎に角大連なり、安東なり更に他の各港に近年多く多ければ何も少許でも危險の虞れある營口に船主は船を寄越さぬ事となる、之れも營口の繁榮を妨ぐる一要の點である

▲第三　營口は晚秋の十一月から翌年の三月まで全く遼河の結氷によりて海上交通を杜絕されて終ふ、年間の約半歲弱船舶の出入を缺ぐやうでは海港としての價値は誠に乏しいと云はねばならぬ、營口には油房も大分ある、此の油房で十二月頃大豆を潰して搾つた豆油豆粕の類は大連に廻送して其の不利の輸出を圖らざる限り、翌年三月までは空しく庫中に死藏するの止むなき事情にある

▲唯前記の如き大障害あるに拘はらず、尙ほ今日の實力を維持して行くのは、其の背後地の根據如何に因るかを知るに十分と云つてよからう、以下少しく營口の將來に就て語らう

人事消息

▲山崎義夫氏(總督府技師)　廿三日朝退京
▲朝枝信太郎氏(小野田セメント會社技師)　二十二日退京
▲中村辰五郎氏(釀酒業)　二十三日朝退京
▲藤田臣由氏(戶畑鑄物會社々長)　二十二日夜入京天眞樓へ
▲鶴岡壽良氏(憲兵隊司令部附二等軍醫)　二十二日夜入京山本旅館へ
▲久我活胤氏(朝鮮銀行元山支店長)　二十三日朝入京不知火旅館へ
▲阿部鄕氏(同上哈爾賓支店長)　二十三日夜入京不知火旅館へ投宿の筈
▲伊藤信郎氏(同上龍南支店長)　同上
▲今井八十次氏(同上馬山支店長)　同上
▲小西齊雄氏(同上奉天支店長)　同上
▲高橋章之助氏(辯護士)　二十二日夜歸京せり

咲き誇つた櫻

京城全市を蔽ふた花の霞

吉野櫻の咲き揃うた漢陽公園

―夢の様な暖かな日に―浮き立つてゐる人の心―

新らしくできた朝鮮名物かなんぞのやうに、此のあひだ内から吹きつゞいた空ッ風も

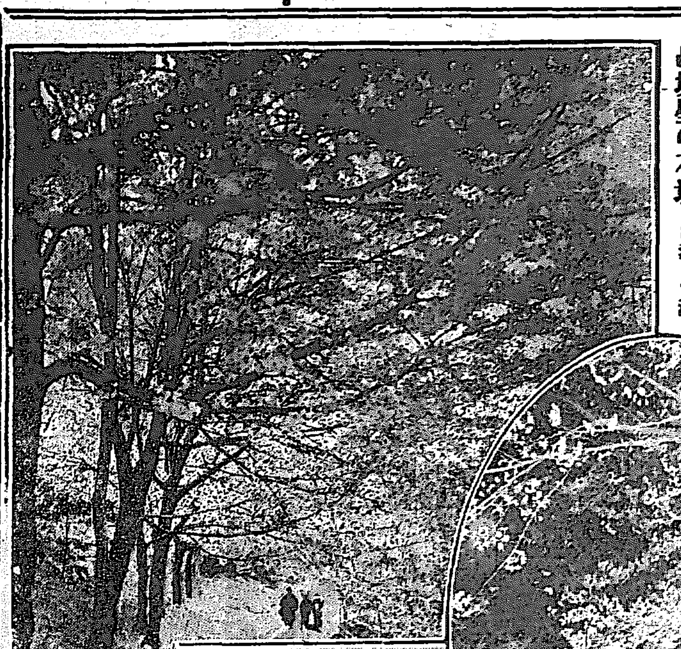
此の二三日 前から温なしうおさまつて、夢のやうな暖かな日がつゞくやうになつた、四門から迸うて入つて來た春は、霞となつて最う全市に溢れてゐる、その霞を破うて艶やかに咲き揃うた花は町の角にも家の軒にも庭にも

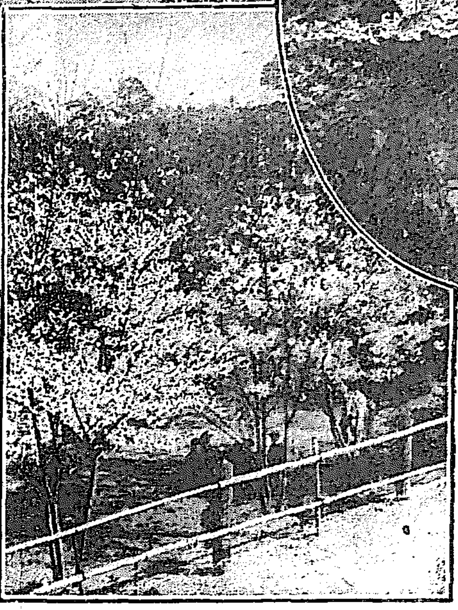
小川の流れ のほとりにもさては山の頂きにも畑の中にも匂ひやかな裝ひを凝して微笑むでゐる、そして抑へんとして抑へきれぬ吾々の遊びごゝろを唆らうとしてゐる、おゝ春の自然が誘なふまゝに吾等はその

軟かな空氣 を吸うて、盛りの短かい花の色香をたづねて歩かうではないか、そして三春の行樂を心ゆくばかり味はうではないか、……態んな事を考へながら彼れは先づ洋杖を振りながら漢陽公園へ上つた、山の上の廣場から

午砲臺の方 にかけて彼れと同じやうな氣分を持つてゐるらしい人たちが靑い〳〵空から落ちて來る目も眩むばかりの明るい春の光を浴びながら、皆一樣に幸福らしい喜びを湛へながら踊つたり跳ねたりしてゐた

城壁の石垣 に沿うて淡紅い花を美しく著けた細い吉野櫻が浮き立つてゐる人の心をます〳〵煽りたてるやうにちら〳〵と微風に搖れてゐた、櫻の木と木の間なる城壁の上に立つて市中を見れば





上、御苑の花の雲
中、倭城臺の夜櫻
下、南山の吉野櫻

南山へ、醉ふ人の群を縫うて

―櫻は眞盛り―花の下に赤毛布を擴ろげし―

いさゝか赤味を帶びた圓い霞で畑一面は霧赤い霞が立て罩めたやうに見えた、彼れは城壁に立つて視線の趣むくところすべて

花なる全市 を眺めて一時嬉しくなつた心を歡びながらこの名物とも思はれる茶店の並んでゐる方へと大きく歩いて行つた、掛茶屋の中には杯盤狼藉の裡に大聲で唄つてる者もあつた

三味線を彈 く女をつかまへて戯れてる者もあつた、畳る者もあつた、蓄音機を鳴して客を集めやうとしてゐる店もあつた、言ひ合せたやうに皆赤い前垂をした若い茶店の小娘たちは雲雀の囀づるやうな

聲を揃へて 前を通る人毎に『旦那様、奥様、お寄んなさいまし、お休みなさいまし―』と呼び立てゝゐた、茶店には入れ替り立替り醉山の人が出たり這入つたりしてゐた、彼れは想うした景象をすべてながめながら

愉快さうに 醉步蹣跚狹い道を千鳥に歩いて往き來する人の間を縫ひながら南山公園に出た、美人茶屋の手前の高い所から見下ろすと元の喜久家の庭の櫻が滿開で行人の足を駐めてゐるのを見た、

美人茶屋の 邊りを中心としてその附近には可憐な連翹が靑草の所々を黃色に染めてゐた、總督府前から大神宮に上るだら〳〵坂の兩側の櫻も全く開いてゐた、その直

眞下の町の 鈍色の甍を聯ねた中にも鮮やかとして、芽を吹いた柳の翠なる、鬱金に輝やく連翹や淡紅の杏、櫻がところ〳〵くつきり浮き出してゐた、更に眼を轉じて門外を眺むれば三坂通りから

麻浦街道の 山裾にかけて杏の花は今が眞つ盛り、淡い霞の中に漢江の川面が白く光つて見ゆるもよく、城壁の直ぐ眞下にある將來公園豫定地の果樹園指定地の桃畑の桃はまだ、開花には餘程の間があるらしく

ぐ傍の司法部の前の芝草の櫻の下に男女の四五人連れが毛布を擴げて

酒盛をして ゐるのが、場所が場所だけに彼の眼に面白く映じた、その人だちは十分醉つてゐた

彼れと一緒に歩きながら、こういふシーンを見つけては鏡面に收めやうとする寫眞技師をつかまへて『呑み給へ、サア、グツと干して、モ一つ―』といふやうな事を言つて酒を侑めたりしてゐた

倭城臺の櫻の隧道―奬忠壇の連翹

―花の下で犬を前に置いて寫眞を撮つて貰つた―

大神宮社殿の下の神水池の横を總督府の裏へ降りてゆくと彼れが期待してゐた

櫻谷へ 出た、こゝにも花見の人は押すやうに這入つて來た、銘川に懸けた風雅な橋の袂に天蓋のやうに蔽ひかぶさつて咲き揃うてゐる櫻の花には多くの人の

讃嘆と 讃美の眼が集まつた、寫眞機械を肩にした人が幾人も三脚を立てゝは寫して行つた、中には若い妻君を櫻の下に立せて上から

ピント を合せてゐる人もあつた、彼れと同じ寫眞師に頼んで連れてゐた犬を前に置いて寫眞を撮つて貰つたりした

櫻谷に つゞく倭城臺への拔道には道の兩側の櫻の枝を張つて櫻の花の隧道が出來てゐる花の下を美しく著飾つた花見人が縫ふやうにゆく、彼れはその

道端に 佇みながら幸福に輝いてゐる、人々の顔色を眺めながら彼たびも微笑むだのであつた、そして花から花へと浮かれ浮かれて觀て歩いたために多少の倦怠と疲勞を覺えた彼れは再び

南山へ 戻つて繁昌に落ちついた心をいだきながら、靜かな松の樹の間を山傳ひに奬忠壇へ行つた、小川のせゝらぎが靜かに山谿に囁く

鶯鶯の 聲に和して響いて來るとこの山には華かな櫻に比べて何處までも、おつとりして柔らか味のある連翹がそこはかとなく咲き亂れてゐた

植物園は今日此頃が眞盛り

―入場者は毎日一萬人を下らない―溫室の花―

御苑に咲き誇る櫻を見やうと本町線の電車に乘つたのは二十二日の午後二時頃であつた來る電車も來る電車もみんな滿員で五つばかりやり過してからやつと運轉手臺に小さくなつて弘化門の前で下りた門前には

入場劵を買ふ人達 が一杯に押合つて居る動物園も恐らくこれほど賑やかな事は有るまいと思はれた此處でも後前から揉み立てられながら辛うじて門内に這入ると動物園行きの路、植物園へ行く通りは寄せては返へす人波の上に咲いたり

繚亂たる美しい花 の門が出來て居る、櫻樹の數は二百ばかりであるが何れも樹齢は十五六年今が花に飽ある盛りである花も二十二三日頃は盛りの絶頂、散りそめもせず萎つた蕾は僅に花間に紅點を散らして居る、そよろと吹く微風さへもなく靜かなる春の光に照り渡つてれは輝くばかりである、

先づ道を左に取て 動物園の方に進めば美しい瞳に物を言はせて鴬が花の間から情ありげにかひ覗いて居る、鷺や白鳥や鶴などが春を贊美して歌つて居る邊にも一本二本づゝの櫻がみどりの空に浮かぶまろやかな雲のやうに咲き盛つて居る

花の霞の奧から 嘯く猛虎の聲も春なれば物凄さは無く羽根を廣げた孔雀の姿は園に咲き滿ちたる花と其の麗はしさを競ひ靑紅の色美しきインコー類や美しく

小鳥が春を讃す 百種千樣の聲 がオーケストラーのやうに一種の調和を成して居る不圖、左方の松林の中に人山を築いて居るので何事であらうかと行つて見ると馴鹿のお女房さんが今お産をする處だつた

可愛らしい馴鹿の 赤ちやんがお母樣のお腹から今飛び出した處であつた遠くの方の小さな堂のやうな瞳をあけて優しい產聲を揚げて居つた、それから場内處々にちら〳〵と咲く櫻や躑躅の花を眺めながら、河馬のおぢさんや熊の大將、あじかのおばあさんなんかに一寸御挨拶をして再び

花繚亂たる櫻並木 の中を通つて植物園の方に歩んで行くと熱帶植物の茂つて居る本館の方には花の隧道日の先の方に離宮のやうに見はれて居るこちらの花はすでにら〳〵と風もないのに一片二片散りに散つては浮く池の溝の柳は緑に映し飛んで夢みる如き春の空を映した池いて其の邊には連翹の花も咲き誇つて居る、溫室の花はみんな硝子越しに

強い春の日光を吸 ひ込んで花の香が噎せ返るやうである本館の方の熱帶植物も皆な生き生きとして其の蔓を延ばし寄生藤に紅の花を著けて大根に這ひ上つて居つた、顧みれば弘化門に續く櫻の雲から續々と人波は湧いては押し寄せて來る此の日の入場者は一萬五千餘名と注せられた御苑の花は

まだ四五日の間は 咲いて居るであらう、御苑の中の櫻は花を見ながら動物園と博物館とが併せて見られるから優に一日を遊んで居る事が能きるので此頃は毎日一萬内外の入場者があるとの事である

▼仁川公園の櫻

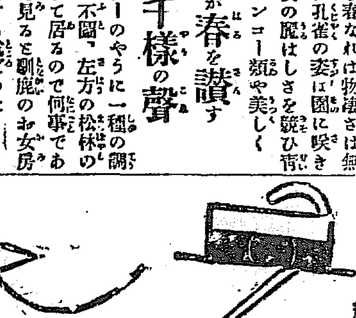
仁川日本公園及び山手通り各國公園各國墓地等の櫻は三分通り以上綻びたるが就中商業會議所上の道路櫻樹及び日本公園の櫻は滿開となりたり月尾島の櫻は來る二十九日の第四曜日頃には滿開となる可し

法主一行出迎

東本願寺法主大谷光演氏は既報の如く二十五日朝釜山二十五日午前八時五十分南大門驛著の列車にて入京すべきが右に就き左の諸氏はそれ〳〵途中まで出迎ふべし

▲和田常市、山口太兵衛、[illegible]（釜山迄）▲荻野原次、[illegible]、三好和三郎、森啓吉、天日常次郎、[illegible]、淵上貞助、木島平兵衛、波多野鶴一郎、廣江澤次郎外二十名（永登浦迄）▲總代、世話役、信者各十名、婦人會各十名（南大門驛）

讀者文藝 （一等には五十錢の[illegible]を呈す）



▽鏑める

○帽子とステツキ（一等） 龍山元町二 岡本三九

▲佳作 京城中川生、龍山多喜郎、杞憂醉井生、京城福島秩子、馬山梨子、馬山貞子、京城波多野仰山、水原田宮西水

▲次回題 上圖の通り

商況

深川正米特電 二十二日現在高 [illegible]

東京期米特電 二十三日前場 [illegible]

大阪株式 [illegible]

大阪三品特電 [illegible]

大阪期米特電 二十三日前場 [illegible]

下關期米特電 二十三日前場 晴天 [illegible]

雜報

綿糸布强硬 [illegible]

米棉八九十錢 [illegible]

粗布賣止め [illegible]

東紡續會社賣止を發表 [illegible]

鮮内移入の困難 [illegible]

解除と同事に百九十圓以上を發表せらる [illegible]

大豆新高値 [illegible]

滯貨幾分宛減少 [illegible]

滿洲產地高値の [illegible]

瓦復値上げか [illegible]

貫一千錢 [illegible]

大口の注文 [illegible]

三十萬枚 [illegible]

當分の間品不足を [illegible]

精白米續て昂騰 [illegible]

値上十五圓五十錢 [illegible]

千疋雜貨氣高下 [illegible]

今一段の高下 [illegible]

新茶三回目入荷 [illegible]

一斤に付七圓 [illegible]

新鰹節氣史 [illegible]

例年より割高 [illegible]

約一割方位の下値 [illegible]

海苔上物高 [illegible]

上等物最も品薄 [illegible]

二三圓方騰貴 [illegible]

粉米好氣配 [illegible]

賣行き引立ち居れり [illegible]

京城正米 [illegible]

京城雜穀 [illegible]

南大門の雜穀 [illegible]

仁川現物市場 [illegible]

釜山穀物（廿二日）[illegible]

仁川期米 [illegible]

二十三日前場 [illegible]

大阪前寄十六圓七十九錢と一昨比七十七錢の一錢安の入電一節 [illegible]

期米 賣買 [illegible]之助 [illegible]

市場零聞

保合小堅し [illegible]

仁川米豆取引所 二十三日の六月限 [illegible]

人氣の買募小堅き [illegible]

前場の手薄 [illegible]

市場賣物薄 [illegible]

鮮人筋買募 [illegible]

十日大安一向利食氏强き成行 [illegible]

仁川米豆取引所仲買人 伸買店 電話[illegible]

一時反動を來 [illegible]

展開未だし [illegible]

期米前途觀 [illegible]

大堆積米の處分出來ざる以上 [illegible]

意外の持米大農の手には倚 [illegible]

仁川米豆取引所仲買人 今村覺次郎

目先倚降雨量少き懸念する處 [illegible]

■不正漁業者檢擧 [illegible]する所となり乘組漁舟一隻鯖七百尾爆藥八本雷管六個導火線は押收し取[illegible]
■軌道の枕木に 火を發し盛んに燃燒しつゝあるを發見したる爲め六分間[illegible]
旅客 [illegible]
四月廿二日午後九時三十分發[illegible]
募集規程 [illegible]
天氣 晴れ [illegible]

卅島新兵衛吉(二三)等の漁夫は四月五日慶南蔚山沖合にて爆藥を使用し不正漁業に從事中蔚山署員の探知

●枕木から火 京義線輾城驛 平壤行きの六十五號列車が十七日午前六時頃沙里院沈村驛間を進行中火が燃えつきたるものならんと

●連絡船上陸客 四月廿二日午前八時四十分釜山入港高麗丸 一二

●最初の一分間

―水管自動車の寄附に就て―

京畿道警務部警務部長談

本年警務總監部構內で擧行した消防出初式には假設火災場を設けて南大門消防所に在る水管自動車と

▲水管馬車と に對し同時に出動を命じた處自動車が四分間に現來して全部消し終つた跡九分三十秒間を要して漸く水管馬車が到着したので明かに水管自動車の効力を證明し得た又自動車式と馬車式とは單に速力の優劣のみではない馬なるものは使用後相當の休養を與へなければ引續き使用する事が出來ぬから冬季火災の頻繁なる時になると意の如く活動することの不可能なるばかりでなく瘦苦境に遭遇するが自動車に在ては何時でも出動が自然である加之自動車は出動と共の用具とを火災場へ送つて終へば直ちに消防所に引返して

▲第二の出動 準備を整ふる等極めて機敏なる動作が出來る其の他經濟上にあつても馬匹、厩舎、飼料等を要せず極めて少額なる維持費で足る寄附になつた水管自動車は今其の筋に對して受理認可の申請中であるが矢張南大門消防所に配置する筈である清溪川(水標橋の川)以北の鮮人市街即ち總督府醫院、昌德宮並びに目下小學校建築中なる訓鍊院方面及び龍山方面に對しては

▲遠距離なの が遺憾であるが今は唯一臺のみであるから已むを得ず將來尙一、二臺の增置の機會を希望しつゝある寄附者諸氏は朝鮮銀行を始め其他の銀行會社主なる實業家諸氏であるが中に先般京城日報に登載ありし若草町四十一番地藤井慶太郎氏は黑して二百圓を寄附されてある今氏の家を訪ねて見ると昨春の若草町大火の焼け北りの附近で入口四坪計りの土間に旋盤臺一基と自身發明された云ふ郵便行嚢の金屬封印製造機械が据てあつて座敷は僅かに三疊で之に母と娘との三人起臥しうて見ても裕福の察しとけ見れぬが本人に面會して見ると確實な立派な思想を有つた

▲質實な人で 幼少より職工生活に入り小學校の外別に修はせぬと謂はるゝが機械其他に付ての說明は殆んど一定の學識ある人の言の前で機械に付ては多大の趣味を有する處から研究の爲め故らに官私機械工場を轉勤して廻つたさうで其の發明した封印機械も總督府通信局員の賛助を得て特許出願する筈であると序に消防車に對する避譲方法に就て一言したい

▲行通者の總て が消防車に對して避譲すべき事は各國一般の規定であつて我內地並に朝鮮も亦同樣に規定されてあるにも拘はらず京城に在りては火事と云へば多くが一時に屋外に飛び出して路上に狂奔群集するので交通は平素よりも妨害が多くなる此の間を交通者に危害なく全急速に目的地に到達せんとする消防自動車の操縱者の苦心は一と通りでない將來では火事と云ふと一般が自ら交通を停止して消防車輛に路を與へると云ふ事を聞いて居るが京城でも是非斯様に公德を守られて欲いものである(をわり)

◎龍頭神社大祭 釜山の氏神なる龍頭山神社は廿一、二兩日例年の通り春季大祭を擧行したるが市內各戶に國旗提灯を掲げ各町道筋には街燈を連ね種々の装飾を爲し廿一日夜は午後七時より學校生徒及び市民の提灯行列を催したるが長手通りの如きは參加者及び見物人群集し雜沓を極め廿二日は午前より神輿を各町に練り正午寶水町學校前に休憩を爲し午後歸還せしが各町共業を休み大廳町鮮銀支店前の空地に於て素人角力其他種々の催しあり市內は近年稀なる盛況を呈せり(釜山)

○曹洞宗別院(若草町)二十四日午後八時より地藏尊降の法要あり

◇南北滿洲視察團畫報(四)◇大連港內の雄觀(上) 二十日午前十時滿鐵の小蒸汽は第一波止場から京港口に出た、船の上では一同大埠頭の宏大さに吃驚し徴しつゝ內港の浮ぶ港內を指呼する、ここに埠頭事務所長岡崎新太郎氏は一行のために懇切な說明を試み一同非常な滿足であつた、氏は英國の船長免狀を有つた人で非常に埠頭事務所の仕事を勉強して居る、唯見れば逝て港外には內地から一海から出さな汽船が汽笛をあげつゝやつてくる、大大壁の壯觀は海上から見ても活氣に滿ちあふれて居る(二十日午前十時十分大連にて金谷生)

◇滿鐵招待の大午餐會(下) 大連ヤマトホテルの屋上庭園にて滿鐵の盛大な午餐會は二十日の午後一時から催された、會場はヤマトホテルの高い屋上庭園の北の一角、三鞭の盃に泰の日がうらゝかに照り輝いて大連の市街から海から一眼に見ゆる、此の日滿鐵の主人側よりは改野、樺山三理事を始め久保庶務課長、西村農業課長等氏の出席あり他に鮮銀太田理事及び滿洲日々、遼東新報兩社長の來席もあつた、卓上はまた非常な主人側の款待で一同十二分の歡をつくしたのであつた、かくて盛宴たけなはなる頃改野理事は起つて一場の挨拶を試み滿國の視察團一行が將來滿鮮兩地接近の楔子たらんとを祈るとて一行の爲めに三鞭の盃を擧げこれに次で阿部本社長もまた起つて一行に代り謝辭を述べた、寫眞はヤマトホテル屋上庭園の盛宴と改野滿鐵理事の乾盃である(二十日午後三時ヤマトホテルにて金谷生)

◁視察團より▷

◇大連の街 盛んな油房業

▲官民の大歡迎 ▲支那人の車夫 ▲面白い電車 ▲純日本式と支那式 ▲河口の滿鐵工場 ▲一同の感謝

◇十八日の午後七時十分一行の汽車は大連驛に著いたプラットフォームには滿鐵から改野、樺山兩理事をはじめ官民有志が數の大歡迎である、大連の街は畫のやうに明るい電車が馳る、自動車が飛ぶ大大連はあくまでも明るくあくまでも活氣に滿ちて居る

◇大連のこのごろは恰度楊柳やポプラの若芽時、西公園のあたりから伏見臺通りの街の其處此處に煙るが如き若芽が出た

◇大連の乘物では支那人の馬車が一番多い、それに自動車は勿論人車、電車が到る處に通ずる、ことに奉天で見た俥は獨逸式のが全部であるのに此の地のは總て日本式人車であるのも面白い、勤勉な支那人車夫はたのまれもせぬのに出入の多い家の軒には梶棒をおろして客を待つ、この邊も感ずべき支那人の勤勞よりであらう

◇電車といふのがまた面白い、これは京城のやうに兩班指車も、鮮乙もいふのでなく同一の電車で上等と下等とに分けてある、そして上等には多く日本人、下等には多く支那人が乘る、且つまた乘車賃金一時間券と半時間券の二つがあつてその間は何處まで乘り廻しても差支ない

◇大連の街路は馬車をドライブしても自動車を驅つても實にスゥーと快よく馳る街路はコンクリートで固めてコールターを塗つた完全なもの

◇大連の街はまた煉瓦の巨きな建物と防寒設備の整うた家が揃うて並ぶ京城の鮮銀館のそれのやうである肥して表は煉瓦の洋館でも室內は疊の聊附きの純日本式―これは獨り建物のみならず大連そのものが係廢じのするところである

◇南滿洲鐵道を南下してその先端の大連に來ると曾て大露亞西人が遙々哈爾賓から一氣可成に殺到して來たヌーボー式の偉さを思はすには居られぬ

◇大連は豆の大連、滿鐵の大連、青年者の大連である、從つて萬事に活氣横溢の趣きが見ゆる

◇大大連では目下同遇を探しても空屋がない、それに毎船便毎に日本人がドシ〜〜ドシ〜〜移住して來る、今でさへ一年一億五千萬圓の貿易額があるのに這回鞍山站の鐵鑛でも完成して見よ、一年三億圓位ゐは朝飯前のはなしさとは大連の人の强い鼻息、朝鮮のお客は少々羨ましくないでもない

◇滿洲といへば大豆を想ひ大豆といへば大連の豆粕を聯想するが實際大連の油房業は盛んなものと云はざるを得ぬ、今日では一日優に十五萬枚の豆粕を製し豆油はまた火藥の原料たるグリスリンとなり石鹸の原料となりおまけにバタもこれから出來る、それでこの頃では船賃さへあれば歐程にても米國に値段よく賣れるので、いよ〜〜豆の大連である

◇また滿鐵經營の中央試驗所では南滿洲名物の柞蠶の織物工業から窯業電氣化學工業等を研究し見込の立ちた事業はドシ〜〜個人または會社の經營に移してゐる、殊に近來は高粱酒の蒸餾粕から高價な乳酸石灰がとれ出し內地で一封度二圓の品が此處では同量十五錢で渡すとのこと

◇また市外沙河口の滿鐵工場では大きな機關車から客車の製造から會社使用の諸道具類一切を製造修理してあるがこれもなか〜〜盛んなもの殊に薄紅い熔鐵が水のやうにトロ〜〜流れて火花を散らすあたり非常な壯觀である

◇視察團一行の中には時々風邪にかゝつたとの咽喉が痛いとかいふ人が出て來る、すると團員中の朴宗植氏がチョイ〜〜手盛りの紙包みを取り出して呉れる、先生匙加減を忘れちやあ困りますせなどと殿の代りに藥口を進呈する連中もあつたが朴さんは千葉專門醫學士として京城弘仁醫院長の押しも押されもせぬ大國手病氣は一服でケロリと治るからありがたい

◇視察團一行が各地到る處で驩迎されたのは洵に一同の感謝に堪へぬところであるが殊に安東縣以來到る處ころ繪葉書や印刷物攻めの御馳走、殊に營口の鮮銀支店榊原健氏、大石橋の小林氏等熱心にこれ等のもので土地の紹介に努められた、猶ほまた大連に於ける滿鐵、鮮銀其他、官民有志の歡待ぶりは實に至れり盡くせるもので就中滿鐵からは毎日四輛の電車を廻す小蒸汽を出す午餐會を開くといふ斡旋振り一同の非常に感謝に堪へぬところであつた元京城臨濟寺住職であつた圓山大嶽老師は視察團大連著の夜驛頭に一行を出迎へて左の詩を示さる(十九日大連にて金谷生)

權城故人察物華。曇殊景象亦如何。
相迎驛站修敬義。不勝春風感慨多。
征衣抹過幾煙雲。山色水光添見聞。
大陸尤歡連絡鎖。輿時多感發人文。

口演藝案內

早川演藝部直營 有樂館 電話一〇九番

四月十九日より提供の喜劇特選大寫眞

▲泰西活悲劇「死の陰」全三卷

▲舞ひ扇 全三卷

▲平家の忠臣惡七兵衛景清一代記 全五卷

[illegible]

連日滿員 御禮

革新撮影 不如歸 全六卷

當地某令孃出演筑前琵琶彈奏

大正館

天然色活動寫眞株式會社京城釜山一手代理店

電話三三七六 六五二 黄金館

四月二十日より提供

▲新劇忍術殺り天童神力丸

▲活劇拾時の秘密

▲新派活悲劇命懸け

[illegible]

京城壽町 壽座 電話五七八番

今様能樂家元紫泉會

[illegible]

御成座 電話一九一 成町

新派 眞劇館 團三郎一行

[illegible]

大正館 櫻井町 電話八七三

[illegible]

明治町 浪花館 電話二六〇

東京、大阪合併落語大一座にて近日開演可仕候

京城壽町 壽館 電話一〇〇三

▲山村春期温習會

[illegible]

本紙へ投書者は新築落成の...

[illegible]

頭分けには 二葉ポマード

美髮用煉香油 棒チック水油を要せず思ふ樣に調髮が出來ます

お髮上にも大歡迎 大評判!

大阪南久寶寺町 元 角倉 支店

定價 1, 25, 35

ルーデサック 特製品

A十個四十錢 B十個六十錢 廿五錢女用一個八十錢廿個以上一割引郵券代用一割増外に要送料總べて前金の事 振替京城三三二七番 京城黄金町三 山田文泰堂藥房

遠隔地に於ける定期取引は危險の時勢となれり 證據金位の額で立派に現株現物の賣買が出來る 資金は安全確實なる營業也 利で世話す 安全第一の平和戰術、營業案內電信略語表御申込次第進呈す

東京市日本橋區坂本町十八 桐生屋株式店

特約店

小資本を以て急速の成功を得可し 一村一名限りの特約組合店及莫大の收入ある二郡獨占支部募集 返券入照會次第成功の手引たる營業案內進呈 東京神田萬世橋際日本通商聯絡株式會社

勝 曾我商店 米

法人登記公告

一 洪川地方金融組合登記事項中出資ノ總口數ヲ四百拾六口拂込ミタル出資ノ總額ヲ金壹千六百八拾壹圓武拾六錢ト變更ス

一 麟蹄地方金融組合登記事項中出資ノ總口數ヲ四百武拾口拂込ミタル出資ノ總額ヲ金四百武拾圓ト變更ス

右大正六年四月貳拾壹日登記

京城地方法院春川支廳

外科一般 花柳病科 內科一般 皮膚病科

普通及隔離病室完備 診察夜九時迄

京城旭町一丁目(本通り左に入る) 島崎病院 電話二七三六番

資本金 貳千貳百七拾萬圓
積立金 壹千〇五拾五萬圓

株式會社 第一銀行京城支店

京城本町二丁目(振替貯金京城一一一番)

支配人 西村道彥

銀行一般の業務は確實を旨とし精々御便利に取扱申候

內地滿鮮並に歐米樞要の地に爲替取引先有之候

明治火災保險株式會社代理店事務取扱申候

各種萬年筆 即時修繕

京城旭町二ノ六 東京パイン萬年筆出張所

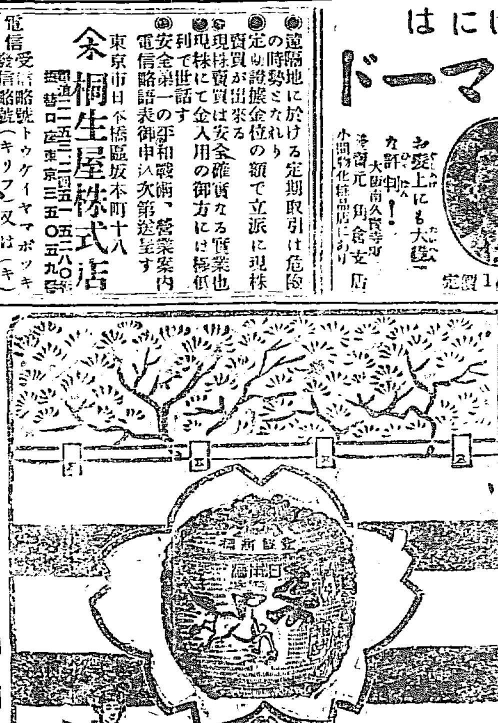
診察時間 自午前九時 至午後六時

初診の御方は可成午前中

京城長谷川町一丁目(朝鮮銀行裏門前)

シメノウチ齒科醫院 電話八二二番

醇良清酒 春駒印 本火發賣(四月十五日より)



特約販賣店 京城南大門通 電一〇三八番 ウ鍋島宇吉

產科專門 婦人科

手術室完備

京城明治町二丁目(元漢城病院下黄金通大正舘前)

中央婦人病院

院長 電話二三四〇番

月刊商報御一報次第進呈

夏物品揃

帽子各種 シャツ各種 手袋靴下 猿股半月 和洋手拭 洋傘和傘 石鹸化粧品 曹達煙草 櫻ビール 三矢サイダー 其他內外雜貨一式

釜山大廳町一丁目

明治屋本店

振替京城一〇七番 電話三四八番

內科 小兒科

京城永樂町一丁目(品商陳列舘前)

村上病院 電話六一三番

院長 醫學士 村上龍藏

副院長 熊本醫學士 松下三雄

明君道中記

第百二十四席　田邊南龍口演

井伊掃部頭直孝は藤右衛門の申し立を聞いて　井『其の大工與三郎と申す者は其方娘いねなる者に會つたと申すか』藤『左樣にございます。娘に普請の趣を悉く物語りましたこと故、城内へ歸つては御普請出來の上其儘歸ることは叶ふまいと止めましたる處、それでは責て親方の宅兵衛だけは救ひ出したいと云つて再び城内へ立歸りました處役人に見咎められ、遂に宅兵衛諸共斬られてしまつたのことでございます、手前娘の遺書にてそれを承知いたしました』井『ウム左樣か、其方は天晴なる者である、何れ宜きに取計ひ遣はすぞ』と云つたが是ぞ天下の一大事如何はせんと案じ考へて居りましたが、聽ると、直に白紙の御書面を上樣へ贈つて正月十三日を呼んで何か仰せられ、何も書いてございません白紙を十三日に渡す　十『委細畏りました』と早速石樋御本陣を指して遣つて參ります、家光公は御晝食が濟んで御出立にならうと云ふ處へ　十『御發足暫く……御發足の儀御止りを願ふ』と云ひながら乘立つて參りましたので其の事をば役々の面々より申し上げる、依つてピタリと御發足がお止りになる、十三日其處へ參りまして　十『某は江戸表御本丸御留守居水戸中納言頼房の臣太田助之丞と申す者にございまする何卒上樣へ御取次を願ひ奉る』と云つて其處へ書面を差出す、容易ならんことでございますから取敢ず十三日の乘つて來た馬を段々手當をして遣り、偖上樣に言上すると、上樣に於ても悉く驚き大勢を集めて御評議になり其の書面を披いて御覽になると何も書いて無い白紙でございます。一同是を見て吃驚いたし、如何に周章ればとて何も書かぬものを贈るといふ如何なる譯であるか、と不思議に思ひました、中には○『恐れながら是は火の上に翳しますと文字が出るのでムいませんか』炙出しでは無い第一御取次をした土井大炊頭と云ふ方も誠に氣りの惡い譯でございますから赤面をしてお在なさる、時に將軍家は大炊頭に對つて　家『コリヤ大炊、是は如何なる間違ひであらうな』大『左樣にございまする』其の職掌でありながら箝たるべき者が手紙を封じて遣はす譯はございますまい、是には何か仔細のあることゝ」大炊は心得まする」諸役人是を聞いて○『イヤ是は大ひに御最もの次第で』と洒落どこではございません、此の土井大炊頭利勝といふ方は家光公の爲には伯父に當つて居りまする、其の理由は元龜元年甲午年六月二十八日の姉川の戰でございます、徳川四天王の一人榊原小平太康政といふ人が數刻の戰に馬を乘潰して居る處へ、旗下土井小左衛門が參つて此の體を見て己れが乘りたる馬を小平太に遣はして其の難儀を助けました。戰終りて後小平太康政より此の事を家康公へ申し上げると、家康公は大いに感心遊ばして早速小左衛門を召し出し　家『偖小左衛門其方は朋友の難儀を見て康政へ乘馬を遣はしたる感心なことである。依つて予の乘換を其方へ取らせる』小『有難き仕合に存じ奉る』家『小左衛門只今此處へ馬を牽出すが此の馬は予が年來愛育いたした馬である。最も予が胤を宿して居るから身二つになつたら其の事を申し立よ』變な馬があつたものだと小左衛門は思つて居りますると、間もなく其處へ出ましたのは一人の女、恥しさうに差俯向いて居ります。家康公　家『コリヤ小左衛門此の乘換を汝に遣はす故早う伴れて參れ』と此の婦人を小左衛門へ下さる、月滿て生れたのが一男子、此を甚三郎と名付けて小左衛門へ下されました、此の甚三郎が成長して大炊頭利勝となりましたものでございます。

太鼓とお馬を　木村屋パンが　うちの坊やのお友だち　(京城明治町　電二八七〇)

五月幟　友仙染武者幟各種　京城本町二丁目　電話三五八四番　龜屋染工場

開業御披露の爲め當分の間半額　免許　灸　按摩　マツサージ　療術　狩野ツネヨ　本町一(龜屋横入)飯田水東別館所内　電二三三六

院長　醫學士　森定吉　內科　小兒科　京城本町一丁目　瓦斯會社向側　芙蓉醫院　電話二六二三番

四月廿五日　九星　舊三月　五日丁酉　本命一白　北　破　先勝

▲一白　小田舍に於る事有る　日新事見合西方は吉錦北▲二黑　女難おとしもの　用心の日新事手控酒は吉慶丁寧にせらるべし▲三碧　誘込よき日移居旅行入學名弘、職仲上嫁聟取大なる金融等萬吉▲四綠　紛々として餘裕有る日轉居開業等萬　逃で吉女子の婚約を結ぶに妙也▲五黃　眼利違いの事有る　日新事手控商事は吉買物屋入等に用心の事▲六白　上運の日轉居入門旅行名弘　求職株上金許緣組養魚養蜂等皆吉▲七赤　濟類の日轉居行商　入學名弘求職　株上出漁婚禮酒類業等萬吉▲八白　お爲ごかしに乘る事有る　日注事新事手控商事應取は妨なし▲九紫　長し短しの事有る　日新事手控多事は吉一切のせわ事せぬがよし

周易　明治町二丁目　介石堂　岡村介石

花柳病專門　外科　●梅毒●淋病●泌尿生殖器病●婦人病●九病●神經衰弱●肛門病●皮膚病●六〇六號注射包皮手術ヒステリー●子宮內膜掻爬其他手術毎日　京城南大門通　農工銀行裏　司生堂醫院

懐中時計　新荷著

[illegible]

右は今回當商品にて本商會より引受け之を販賣致候に就き御用命願上候　時計、蓄音器、ミシン機械、自轉車、洋酒各國貨直輸入商　本店　京城本町二丁目　電話九七二番　イングレッシー商會

亞鉛、銀鉛、銅、鐵鑛　鑛區買入(許可鑛區　先願權)　融通鑛物買入　資金　京城明治町一丁目七番地　正巳鑛業所　電略(マ)又は(マサミ)　電話一五九

ドクトル　女醫　中村齒科醫院　京城本町三ノ九　電一五八三番

子供授業服　一尺六寸　一尺八寸　二尺三寸　二尺九寸　二十一尺三寸　以上一寸增に付男子十錢……　發賣元　喜多尚　[illegible]

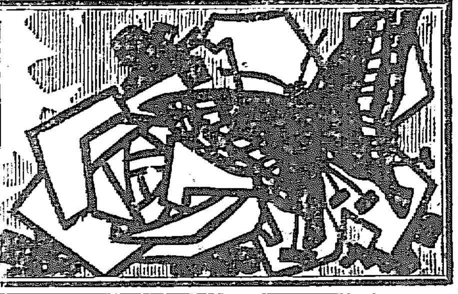
兩面ゴム氷枕　[illegible]

新案特許三九二一號　男子用　婦人用　子供用　在來空氣枕　[illegible]

特長　任意に高低となり頭部の接觸柔軟也　[illegible]

魔法空氣枕　好評嘖々

賛化病院　京城本町二丁目　電話二四二番　內科　小兒科　入院隨意　毎日五名を限り無料施療す　醫學博士　古城憲治　醫學士　上野亮藏



いゝ匂が永く保つ一點の非難なき　オリヂナル　原料香水

貴き方々を始め上流社會の御用益盛ん　◎近來粗惡なる原料香水の似物模造品續々現はる御求めの際は發賣元に御注意

本舗　東京　安藤井筒堂　大阪　藤森源之助

寫眞　寫眞出張撮影、寫眞銅版、亞鉛凸版　京城日報社　寫眞製版部

模範牛乳　ニッソ石鹸　洗粉　東亞牧場　京城蓬萊町四丁目　電話五二番

髪の手入は　髪の良き人には愈良く惡き人は一度で忽ち漆の黒さとする　植物性美毛劑加味　ホーカー美髪液

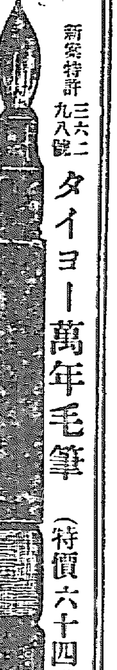
新案特許三六二九八號　タイヨー萬年毛筆　(特價六十四錢)

本品が從來有り觸れたるものと異り頗る精巧無比、構造堅牢にして永く使用に耐ゆる事は既に定評あり、穂首の取換自在なれば實用に適し且つ經濟なり尚普通ハ毛筆より高尚優美にして一度墨汁(開明墨)を入るれば端書三百枚迄は書き得るを以て携帶用として亦事務用として頗る便利也旅行家外勤家には最も欠く可らざる必要品なれば是非一度御試用あれ

▲替穂壹個金八錢　▲スクリップ壹個金五錢

△團體若しくは合同にて一打以上御求の方は特に割引の御需に應ず

●發賣所　京城大平通一丁目　振替京城三〇〇番　合資會社京城日報社代理部



帝國陸海軍、帝國大學、赤十字病院、慈惠病院、鐵道院、傳染病研究所、其の他に於て多年採用せらる

品質本位　花王石鹸の

御愛用をお勸め致すのは、敢て事大を强ゆるのではありません

是れは化學上から見ても、經濟上より見ても。又は化粧衛生の効果に於ても、品質本位の花王石鹸は優秀であるといふ事實の證明があるからであります。

花王石鹸製造元　東京馬喰町　長瀬商會　花王石鹸關西代理店　大阪安土町　大蔚組商會

汽車發着時刻　[illegible]

第三版

京城日報

四月廿四日（夕刊と合せて八頁）

本紙定價　一箇月金五十錢　三箇月金一圓四十五錢　半箇年金二圓八十錢　一箇年金五圓四十錢（郵稅共）
廣告料　五號活字一行金五十錢　特別欄は此の限りに非ず

京城太平通一丁目　發行所　合資會社京城日報社
電話　編輯局・營業局
發行兼編輯人　奧田直毅
印刷人　小川三之介

大同江々畔より

峰生

大同江の晩煙を眺めつゝ、得貴意候。四月十五日は、京城日報、毎日申報兩社の催しに係る、滿洲視察團の出發を見送らん爲め、午前九時南大門に出掛け候。停車場は大混雜、大雜沓、團員約百名、而して見送者は之に十倍せり。團員の十中七八迄は、朝鮮紳士、紳商、若しくは郷紳たり。趙重應子此が團長たり。阿部無佛居士幹部總指揮官たり。而して兩社社員、其の下に、各々任務に服しつゝあり。予も見送り旁、平壌迄罷越候。定めて今頃は、一行奉天に安著と存候。朝鮮人の滿洲移住は近年注意す可き現象に候。此行豈に偶然ならん哉。必らず將來には、何かの好果を齎らし來り可申候。

平壌には、午後三時半前到著、此れより直ちに樂浪郡治の遺趾、土城里に赴き候。大同江を渡りて、左岸に著すれば、既に畑となく、道となく、斷礎、廢瓦、狼藉たらざるはなし。礎は此地の特色に候。愈よ進めば、當時の土城は、恰も帶の如く半環形をなし、其の殘骸を留め候。而して土城の上には、芝や、荊棘生ひ茂り、小阜の如く、累々として斜陽を浴びて、遙かに土城以外の地點たる彼方に連り、更らに眼を轉ずれば、大同江水は溶々として、小鱗をなせる中洲を迂回して流れ、而して白帆、布帆は、此間に出沒し、堤楊、汀柳は今や既に輕柔を弄す可く、其の新芽を吐きつゝあり。古人の所謂「坐見蒼茫萬古意。遠自荒烟落日中來。」の感なからんとするも能はざる也。

予等が採拾する迄もなく、鮮童の一群、追隨し來り、頻りに其の採拾したる物を賣り附け。而して予等と競爭して、更らに頻りに採拾し、隨て採拾すれば、隨て賣り附け。斯くて予等は、自から多く獲ざるも、鮮童等に致されて、若干を購ひ得たるは、仕合にて有之候。斯くて前きに土城より眺めたる、貞柏洞の古墳に抵り、其上より火の如き夕日を眺め、遂に鎭山の發電所に赴き、其の專用渡船を假りて、大同江を渡り、寒き川風に吹れつゝ、牡丹臺下の御牧の茶屋に投宿したるは、午後八時を過ぎ候。土城里は、樂浪郡治にして、漢氏の居留地とも可申。而して其の漢代の遺物あるは勿論、此れと與に、高勾麗の遺物も少からず。蓋し代變るも、地變らず。一坪の地面にも、漢人と、高勾麗人との遺物は、雜居致し居候。

所謂る御牧の茶屋は、浮碧樓の上、永明寺の畔にあり。牡丹臺を仰ぎ、大同江に臨む。平壌第一の絕景に候。小生は今朝永明寺の鐘聲を聽きて起き出候處、半角の殘月は尙ほ微酣さして、半天にあり。大同江一面、曉烟の鎖す所となり、唯だ遙かに向岸の鷄聲を聞くのみにて有之候。群動未だ生ぜざる前、一人にて牡丹臺邊を逍遙し、只今本文相認め候中に、早や朝陽は、杲々として曉烟を破りて、原稿紙を射り候。本日は午前中見物し、午後は京城に還る積りに候。不一。

大正六年四月十六日午前七時

平壌所見

昨十六日は、午前中牡丹臺やら、乙密臺やら、箕子陵を見物し、新たに勸請したる太神宮に參詣し。平壌市街を散歩し午後一時半の汽車にて、京城に還り候。南大門著は、七時半也。平壌も明治四十四年、曾遊の時に比して、頗る改善の痕を認め候。城壁を夷げて道路をなしたるが如きは、尤も妙也。汽車中睡氣醒ましに、左の二首を口占致候。

古墳環列土城周。斷瓦殘甎滿隴丘。
鴉噪鵲舍野花睡。大同江水逝悠悠。

此れは樂浪郡治の土城趾の懷古詩。土城は、今尙ほ周りて帶をなし、古墳は、其の圈外の地點に累々として環列して、宛も外郭を成し候。土城の上より見渡せば、大同江畔の柳や、脚下の瓦礫や、而して滿地の瓦礫や、得も云はれぬ風情也。

永明寺畔客猶眠。浮碧樓頭月半圓。
遙聞鷄聲一聲岸。綾羅島影淡於烟。

此れは牡丹臺下お牧の茶屋に於ける、早朝の光景也。綾羅島は、大同江の中洲にして、今は平壌の水道の蓄水池あり。其名に怍ぢざる、美しき芳洲也。

概して朝鮮を旅行すれば、宛も故郷に還りたる心地す。何となれば、隨處に九州辯を操る者に出會すれば也。小生も此地にて熊本縣の復習をなし、聊か色揚げしたる心地致候。御牧の茶屋の女主人より、高瀨仲先生に宜敷と、呉々申出候。蓋し茶屋の名は、鹽子君によりて、世間に紹介せられたるが爲めならむ。

大正六年四月十七日正午認む

財政總長と會見して　陳錦濤、殷汝驪氏の印象

中島生

中華民國財政總長陳錦濤氏及び次長殷汝驪氏が、收賄の爲めに職を免ぜられた事が、私には特別に意外の感を與へた。支那の官吏が收賄被免の事ありしとて、強ち驚く事もないが、去る三月初旬、私は北京滯在中親しく陳殷兩氏と會見し、言語を交へ、手を握りて別れたと云ふ、新らしい記憶がある丈けに、北京電報は聊か私を驚らかせたのである。

三月六日、段總理が黎大總統と意見が合はずに、天津に出奔し、馮副總統が天津に迎へに行つて、連れ歸るといふ日の午後四時過、私等は正金銀行の小貫支配人に案内されて、煉瓦建の堂々たる財政部の階上應接室に通つた。刺を通じて直ぐに一個の瀟洒たる若い紳士が入り來り、我等の手を握つて慇懃に席を勸めた、其人は財政次長殷汝驪氏であつた。彼れは支那服を著して居たが、日本語が非常に流暢であつた。其の態度風采は毎日申報の方君にそつくりであつた——收賄したと云ふ人の引合に出すのは方君に相濟まぬが——そして其の日本語も方君のやうに達者であつた。「總長に御會ひになるのですか、アヽさうですか、宜しう厶います。私が取り次ぎましよう」と極めて氣輕に出て行つた。二三分すると歸つて來て「總長は直ぐ參ります、さあ何卒煙草を」と皆に挨拶を勸めなどする。此時財政總長陳錦濤氏が扉を開けて入り來つた。殷氏は起つて陳氏に我等を紹介すると、陳氏は一々肯づいて手を握り、客に腰掛けさして、後から自分も座した、總長は日本語が解らぬ。殷氏が通譯する。適當に肥つた、眼鏡をかけた、髭を貯へた、陳總長は、我等を歡迎する意味の挨拶を述べたが、私から述べた旅行の挨拶に對して斯う云た「私は貴下等が我國に來遊せられた事を衷心から喜びます。今や日本と支那とは益々密接なる親善の關係にある、何卒此際充分御視察下されたい、出來る限りの御便宜を計らひます。……支那の金融界について御尋ねですか？支那の銀行は未だ混沌たる狀態である、永く動亂が續いたといふ事が此の狀態に陷らしめたのです。第一革命、第二革命、第三革命と、政治的動亂が連發したので金融界は大打擊を蒙むり、甚だ不安の狀態に沈んだ、未だ今日と雖も然り、其の整頓を見るは前途尙ほ遼遠である、併し我邦も目下政治上なり、經濟上なり、種々なる改善を圖つて居る次第ですから、金融機關なども段々整頓して行くです、御覽なさい、今日經濟的に偉大なる發展を示せる米國ですら、南北戰爭の當時にはグリーンバックと云ふ不換紙幣を濫發したではありませぬか、支那はまだ當時の米國ほどに用界の紊亂は甚しくありませぬ。それから之れは私の意見であるが、日支親善の事です、貴國日本は一衣帶水支那に隣接し、爲替の關係は最も便宜を有して居る、他の列國の何れと雖も地理上貴國の如き利便を有するものは無い。我邦は銀本位ではあるが、然かも銀本位の場合と雖も、一層日支の經濟的連鎖を密にする事は今後期し得られる筈だと思ひます、此の經濟的提携に向つては互に出來得る限りの努力を盡さねばならぬと思ふ。」

總長は諄々として支那の財政經濟に關し種々の問題に觸れて語つた、餘り熱心に說明するので、殷次長が通譯に困る位であつた。遂に電氣が點いたので、私達は辭し去つた。次長がエレベーターで階下へ御案内せよとボーイに命じた。當時の印象はまだ私の頭腦に新らしく殘つて、會見の時の有樣は、今でも糸を手繰つて引出すやうに私の記憶から現はれて來る。而して陳錦濤殷汝驪——總長と次長、切つても切れぬやうに密接の關係にあつた如く、其時でも私に思はれた此の兩個の人は、官吏として最も忌むべき事の爲めに、今は俎上の魚となつて居るのか。若し其證據歷然たるに於ては、彼等は罪せらるるであらう其曉の

中立地帶金産地（一）

△蒲洲に於ける

滿洲中立地帶とは北は西蓋平河々口より蓋平岫巖の二縣を經て東太洋河の上流蔡家堡子に到り南は關東州と界を接する地域にして面積約八百六十方里を有す其金産地は大略左の如し

△李家堡子　土城より岫巖に到る街道に沿ひて流るゝ灉達河の南岸小丘の南麓に在る一小岡にして小洋河を距る事十支里の所にあり鑛床は金雲母片麻岩を貫ける石英脈にして東西に走り北七十度の傾斜を爲し其幅二尺に達するもの一と走向東西に走り南は七十度の傾斜を爲すものとの二條あり

△鰤鋼溝　岫巖の東約十七八支里に位する岫巖の東條道嶺を超ゆれば其麓に南海溝の溪谷あり尙其東に在るものは鰤鋼溝にして東北西の三面を三百米突内外の山嶺を以て圍まれ三箇所に散在し之れを貫けば三角形を成す舊坑は溝の東側に二箇所西側に一箇所ありて西側にあるものは多少採掘したる形跡あり

△嶺　小孤溝の西南十五支里を距る岫巖道溝を南に登れば盤道嶺に達す嶺の高さ五百米突にして東西に亘る岩石の高峰其山軸は東北より西南に走り南側は琵琶溝の谿地にして其形琵琶に似たり三面山岳を以て圍まれ南北の廣さ約十四五町に亘り東西に狹く溪谷爲めに細長く曲して流水依々瑪家堡子に到り小洋河に合す鑛床には角閃片麻岩を貫ける石英脈あり山頭五百米突の山腹に於て英脈の大露頭現はれ其幅二間半に達す

△孟家屯　孟家屯は土城子の西南に當り陳家屯を距る二十五支里の東望海臺山麓にあり北方山岳を以て圍まれ丘陵蜿蜒として河岸に終る露頭は孟家屯を距る七八丁の山上又は溪谷に輝綠岩の山脈にありて片麻岩を貫き其幅一尺乃至一尺五寸にして二脈併行南北に走り西に七八十度の傾斜を爲し露頭を南北に追跡すれば三百米突に達す尙ほ西城家溝にも同樣の露頭あり

△官才溝　老金山脈の西に方り莊河を距る東約一里半の處に存す溪谷にして代家溝を經る西方海岸に達す地質は砂石及び黝色の粘板岩より成り其河床に淘金の跡あり佳岩礫層を堀りて淘金を試むれば金の存在を認め得べし

△老金廠　老金山西南麓の一小林にして莊河の東約二里に位す地質は砂石及び石炭片を交ふる褐赤色粘土板岩及び粘板岩より成り砂金は粘土中に含まる土人の言に據れば耕地の土壤を七八尺乃至十四五尺掘れば岩盤に達し岩盤の上にある一尺餘の砂層中に砂金の大塊を含める事ありと地域内に於ける砂金産地は東金廠、蛤吧溝、孟家溝、西金廠等とす（未完）

螽潮雲語

山際生

英文をよくする支那人

我國人は支那の國力弱きの故を以てとかく支那人を侮る惡い習慣があるけれど、個人としての支那人の中には中々傑出した人物がある。商人として彼等の卓拔なるは皆人の知る所、教育學術の方面に於てはまだ我北里、野口、高峰の諸氏に比すべき人は出でざれど、巧に外國語を綴り外國文を書く人の多き點につきては我國は一歩を讓らねばなるまい。先に駐英外務大臣たりし伍廷芳氏は英語の演說に巧で、其滑稽趣味に富み、英米の大家と併稱せられて居る。英文雜誌記者として何百出するの故を以て、ベキン、ガゼットの主筆たる陳氏は筆力我頭本元貞氏に讓らず、其他に英文を自由自在に書き得る支那人は澤山ある。近く北京に於て支那人の英文の月刊雜誌が發行せらるるさうであるが、其記者は吳と云ふ支那人である。世界の舞臺に立ちつつある我國が優等な英文記者を多く有たぬ事は遺憾である。

日報詩壇

○送神崎堅硯赴任于城　木田芳洲

詩酒合歡三閱年。一朝分手恨綿綿。交孚是無疎隔。長慰風流翰墨緣。
離亭相送酒詩盟。長亭吹揺離別情。遙憶煙未散。歷輪天末指京城。

評曰　首首皆是情。不假雕飾。

○題妓生畫　小永井槐陰

蓮步踏翻顏若花。新粧時樣競嬌奢。蘭香畫眉方懸玉。四月陽和巳破瓜。消瘦關掾黃鳥曲。輕羅搖曳碧天霞。春樓能王孫去。醉臉開俯蹇鬢斜。

評曰　多姿多情。

○其二

綠酒紅燈春色奢。柳眉桃臉豔於花。夜深扶醉香車去。光化門頭落月斜。

評曰　冷麗香艷。眞是漢城竹枝。

○渡鮮之初先考從以和歌頃者得之篋底不堪今昔之感　兒島九臯

歌壁任耳十年前。流浪天涯愧瓦全。遺墨留香人不見。追懷往事轉悽然。

評曰　流淚串珠。心聲動人。

一粟の價値
道に國家を支配する如く
一片の菓子
能く國民の元氣を養ふは
森永ミルクキヤラメル
煙草代用

6—11
森永製菓株式會社

◇本邦唯一の 世界日日の歷典
内容は主に東京大阪兩朝日紙及大每紙等に依り日日の世界日日の記事を精撰網羅す故に尤も近き世界日日の歷史として興趣尤も深し 天下重要なる新聞記事の總てを網羅し集むるは何人も欲する所にして此の精力と時日を如何にせん 正確至便重寶ご能力增進 此際本書に依りて無限の不便不經濟を省略し得べく讀者諸君の批判を乞ひ各位の賛助を得て完全を遂げんことを期す

新聞年鑑　第一卷
定價金八拾錢（本號二限リ）　送料内地十二錢 朝鮮滿洲二十二錢
自大正五年十二月至大正六年一月　四六判六號三段組・頁數七百七十五

主要部門
歐洲戰亂事情　交戰國内事情　中立國の戰報　各方面の戰報　海上方面　講和と各國の態度　南米時報　支那及南洋　支那現勢（對外問題・對内問題）　南洋方面　同時報　政治・政論
政治 外交 内政 軍事 宗教及雜事 地方行政 産業及財界 農工商事項 貿易會社及銀行 海運及通信 交通 貨幣金融 海外商況
宮廷及運動 飛行 運動及體育 相撲 文藝界 文學美術及學界消息 演藝 雜錄 人事 株式市場及會社 東京取引所
大阪 東京 地方 各取引所 米穀取引所 生糸市場 綿糸市場 物價及各地商況 新刊と其批評 廣告統計 官報目錄

發行所　東京市牛込區辨天町九八 東京堂　振替東京二一九四三
大取次所　東京 東京堂　大連 大阪屋號　宏遠社

薩摩式搗鑛水車金物製作
薩摩式水車木組製作
鑄工業
和洋鍋釜　鑛業用具　諸機械類　各種調帶
鹿兒島縣川内町
新原鍋屋
電略（ニナ）　電話五五番

獨逸匿名氏一大怪著！ 澤柳博士批評 文學士長田新先生譯述
恐る可き豫言
破天荒の賣行！
次の世界大戰　一名日本の野心
記憶せよ!! 此中傷的怪文字は今や世界到處に讀まれつゝある事を果然本書は旬日既に七版を重ね日々讀書界の焦點となりつゝあり。此の際本書を讀まざるものは日本國民にあらざるなり!!
四六判三百四十頁　定價八十錢（郵稅金八錢）
東京神田　富山房　振替一〇五

宇佐美内務部長閣下題字
小原地方局長閣下序文
京城日報社編纂
袖珍　府及學校組合法規提要
内容　朝鮮府制、府令、學校組合令、府令、訓令、通牒等苟も府及學校組合に關係ある法規は細大之を網羅して遺さず就中卷末に添附したるものは最近七月に發布せるものまでも收めたるを以て府及學校組合は固より内地人各學校組合議員其他關係者に取りては座右必備の良參考書たるは言を俟たざる所也
裝幀　携帶に便ならしむる爲め製本を袖珍とし紙數は三百餘頁總洋布天金文字入りの頗る美本なるに加へ殊に改正法規其他必要事項の記入に便せん爲め每頁上部約一寸五分を餘白とし更らに卷末に十數頁の白紙を綴込みて備忘に供したる如き本書編纂上に於ける用意の一端を窺ふに足る
▲定價金壹圓卅錢　送料本社負擔
大賣捌元　京城日報社代理部
京城太平通一丁目　振替京城三〇〇番

大阪特電　[illegible]
下關米特電　[illegible]

▲今の商内　[illegible]

後場　二十三日の六月限　四月限 二萬千三百五十石　五月限 二萬四百五十石　六月限 一萬六千六百五十石

○正確なる國論の歸趨！

總選擧の結果に就て＝田遞相談

今回の總選擧に就き田遞相は語って曰く「總選擧の結果は豫期の如く政府側の勝利に歸したり之れに依り始めて衆議院の解散の意義を生じ國論の正確なる歸趨を認むるを得たり今回の總選擧の方針としては國務大臣自ら其衝に當り地方長官及び其部下の官吏をして絶對に選擧に干與せしめず其の取締は嚴正を期すると共に至公至平を以て之れが選擧に臨めり然るに反對黨は當局の態度を云々し公衆に對し政府の干渉壓迫の聲を高めんとしつゝあるも今後彼等の調査にして遂捗せば恐らく政府が何等の術數を弄せざりしに驚くならん又選擧に對する感想として反對黨の機關新聞等は言論戰に於ては確かに勝利を得たりと肯定せるに拘はらず有權者の政治思想は意外に向上發達し誇大の言説に誘惑されず各々一家の見を有し誘惑的煽動に動かされず正當に選擧權を行使したるは大に心強く感ずる所なり思ふに國民の多數は國家多難の秋に當り徒に政爭に没頭するは國家長計の策に非ざるを考へ現內閣をして出來得る丈けの經綸を行はしめ徐ろに其成績を監査せんが爲め政府の政策を是認する多數の選良を議會に送りたるものと見るの外無し云々（東京特電）

○亞爾然丁の最後通牒

南米亞爾然丁國は獨逸に對し最後通牒を發したり（紐育電報）

○土耳古の對米斷交

土耳古は米國と斷交せり（路透電報）

○伯林暴動全國に擴大

伯林に於ける暴動は終に全國に波及擴大し政府は戒嚴令を布きたるが形勢頗る重大なり（路透電報）

○御慰問使出發

在鮮陸海軍部隊御慰問使として差遣せられたる內山侍從武官長は二十三日朝八時三十分東京驛出發波斯の途に上れり（東京電報）

○特別議會開期

特別議會は六月二十日より二十三日迄の間に召集せらるべく會期は二十日間の豫定なり（東京電報）

○大司教長崎着

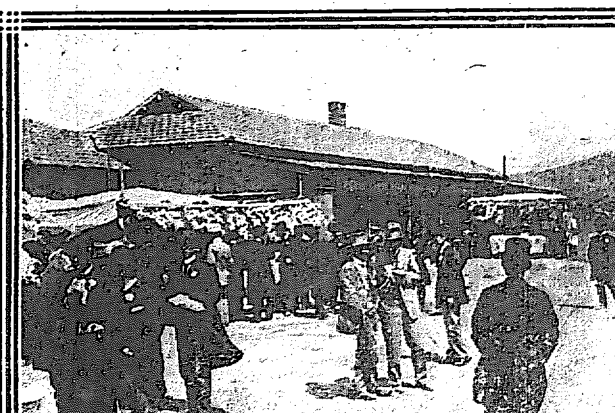
羅馬法皇の使命を帶びて來朝せし馬尼拉駐在ペトリー大司教は二十三日長崎に着したるが一般に面會を謝絶し居れり（大阪特電）

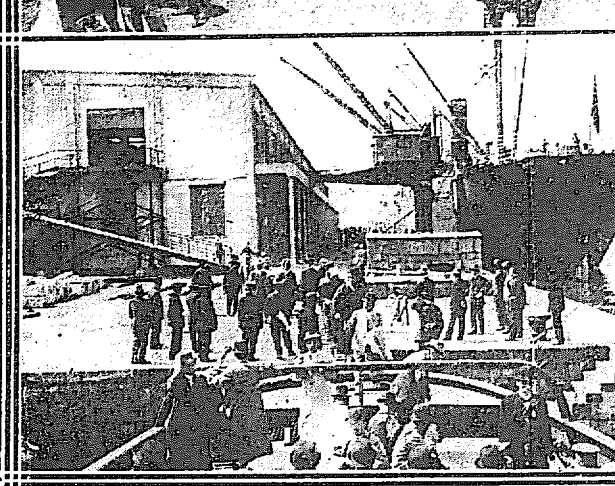
◎滿洲の金融界

目下滿洲各地に於ける邦人經營の主なる金融機關としては正金八、正隆七、朝鮮八、合計二十三箇所の本支店出張所にして何れも堅實なる發展をなし、去る大正二年度の貸出總額は二千百萬圓なりしもの昨年十一月末に至り一躍四千七百萬圓に增加するに至れり之れを朝鮮に於ける全鮮九十一箇所（約滿洲の四倍以上）の各營業所の貸出總額が僅に千六百萬圓に過ぎざるに比し非常の大差あるものと謂ふ可く此趨勢を以てすれば茲兩三年を出でずして滿洲に於ける總貸出高は優に一億圓以上に達す可し而して其內銀勘定千八百萬圓に對する金勘定は二千八百萬圓の巨額を示す此れ漸次金勘定增加の好傾向にあるものと云ひ得べし次に前記在滿銀行の預金高は二千三百萬圓にして之れを朝鮮の預金高に較ぶれば約千七百萬圓の不足を示せるが是滿洲は朝鮮と聊か其趣を異にし放資一方の時代なるが爲なり而かも其銀勘定に依る者僅々三百五十萬圓なるに引換へ金勘定に依るもの實に一千九百五十萬圓の巨額に達せるを觀て以て滿洲に於ける一般金融界が漸く金本位に傾きつゝあるを窺知すべきなり（奉天商業會議所調査）

◇南北滿洲視察團畫報＝（五）＝◇星ヶ浦の鮮銀大園遊會（上）

十九日の午前十時四十分觀察團一行は電車で星ヶ浦の園遊會に赴く、星ヶ浦は大連の西南二里ばかりのところに在って外國人はスターピーチとよぶ、更に何等的な名稱にふさはしき處である、電車を乗りすてゝ小松原まじりの海岸の小丘に出ると入口には觀察團歡迎場と記した大看板や賑やかな音樂隊が居る、それから風流な滿鐵の倶家といはれた幾つもの洋式家屋を通り過ぎに道邊の眺めよき屋の家に着くと園は幾つもの模擬店の賑はひ、お客樣には百名の團員の他に滿鐵の社員、伽、棉川理事をはじめ川中鉄砂課長、高瀬市助役、相川商議會頭等大連官民有志が多數に見えてのどかな溶港には滿洲のかげに[illegible]日が光る、主人側よりは太田鮮銀理事が開會に先だち挨拶の辭をのべた、一行は午後一時四十分此處を辭し更に沙河口の工場に向つた『此の洋式の建物は夏になると一箇月八九十圓の家賃です』との說明の家は夏の休暇に支那人とか長春さかの人がやつて來るのだ相な。（寫眞は園遊會にて太田鮮銀理事の挨拶と模擬店の賑ひ（十九日午後三時星ヶ浦にて金谷生）





◇大連の埠頭下）大連の埠頭はロシヤが遺して行つた非常に廣大なもの客船や荷物船の横付けとなるのは西埠頭の兩岸である、廿日の朝一行が埠頭事務所前に電車を降りて苦力の大豆粕積み込みや大起重機の動くのを見物して居ると第一波止場の突先きには滿鐵の小蒸汽船が一行を迎へて居る、一同が新らしく埋築中の第三埠頭及び港內の汽船や白帆を眺めつゝあるうち小蒸汽は出た、海は油を流したやうな靜けさである。寫眞は廿日午前十時滿鐵小蒸汽に乘船の光景 大連にて金谷生）

○獨軍捕虜三萬三千

[illegible]三百三十[illegible]門に達す

●大連より

▲第二埠頭改築 第二埠頭は手入れ[illegible]るのみにて[illegible]前同埠頭の西側岸壁の改築をなしたむなきに至りしも築港事務所は數年を應じ間餘のフキンダーを使用の止遊は現在より五十尺餘擴ぐる筈なるが若し完成せば岸壁利用上多大の便利を得べく現に定期船倉庫の如きも[illegible]

▲滿鐵時刻改正 來六月一日より東淸鐵道の列車發着時刻改正に[illegible]

急行 一列車 午後五[illegible]大連發 午前一時卅分[illegible]奉天發 長春着

二列車 午後[illegible]時卅分 前九時廿五分 長春著

二〇二列車 午前三時 安東發 午後六時十五分 奉天著

[illegible]午前九時二十分[illegible]

行の奉天發を一時間延期すべし

四月二十二日朝[illegible]より上陸客[illegible]

◎李王參拜延期

李王殿下には本宮御參拜の爲め二十七日成興に向け御出發の筈の處昨今に至り其の宿痾たるレウマチス突發御不快の爲め一時御出發を延期せらるゝに決定したり宿痾御快癒次第御參拜相成るべきも目下の處御出發期は何時頃とも判明せずと

◎露領通過の便法

外國人にして露領域內を通過するの必要ある者に對し露新政府は特種の便法を講じたるが今その要旨を聞くに是等旅客にして二十四時間以上同一地點に滯在せざる限りは豫め在外露國公使館若しくは領事館に依賴し旅行券に露國通過の査證を受け置く時は簡易手續を以て露國を通過することを得ることゝなりたり尤も本人露都到着の上其筋に必要の手續を爲すべき旨露國外務省は駐露內田大使を通じて我が政府に通知し來りたりと

◎京畿道養蠶組合

京畿道 管內に於ける養蠶組合數は百四十五にして此の收繭量千八十四石五斗六升餘、之を前年に對比せば組合數二十三、收繭量約三百九十二石の增加なり又種蠶共同飼育所は春蠶百八十五、夏蠶五十一、秋蠶百十二にして此外無補助經營の者春蠶五、夏蠶五、秋蠶三あり合計三百六十箇所を算し前年に比し合計に於て八十九箇所の增加を示せりと

◎平壤保險契約高

平壤府 に於ける大正六年度火災保險契約高は一萬四千四百三十六圓にして內學校組合保險契約高は一萬五千百八十五圓なりと云ふ（平壤）

△總選擧の日に（二日市武藏溫泉にて）　大塊

日頃晴きつ据る雲雀の雲井哉

○

虎佛

春の雪晴れて天下のちかたまり

人事消息

▲高橋章之助氏（辯護士） 廿三日朝內地より歸京 夕刊に二十二日歸京とせしは誤り

▲後藤瑞巖師 大郎巡錫中の處二十三日朝歸山

▲津村甚之助（朝鮮銀行平壤支店長） 二十三日夜入京不知火旅館へ

▲背山良敬氏（土地調査局監査官） 二十三日夜退京

支那遍歷

上海短信（三）　中島生

二十八日午前上海日報社に赴き、幹井手友喜氏に面會し、暫らく對談し、上海の操觚社會について種々と承り及び候。日報社を辭して、北四川路なる神愛館に高橋、冷牟田兩君を訪問す。偶々此の家にて野田大塊の息後作君と會ふの機會を得たり、後作君は滿鐵長春驛の貨物主任たりしが、此度會社より歐米見學を命ぜられ、出發の用意をなすべく、內地へ歸る途中、北京、濟南、青島等を視て、此の上海に來り、二十九日の郵船にて發すべしと云ふ。彼れ多年の望たる歐米留學の機を得、加之、淑女を得て新婚の歡に醉はんとす。一擧の幸福は、彼れにとりては丹餅で頰べたを叩かるゝ以上ならずや。貧書生は羨望至極と申すべく、決して小生隣燒には無之候也。されば彼れ雖多少人前を憚かり、神妙に控ゆべきに、却々どうして、氣焔當る可らず。陽氣の加減のみでは無さ相也。午後三井物產支店長藤村男より、小生等の爲めに自動車を供せられ、上海棉紗公司の工場に案內せらる。工場は黄浦江に沿へる楊樹浦路に在り三井の支配經營に係り、第一、第二の兩工場に別つ。第一工場は二萬錘、第二工場は二萬五千錘、第二工場の作業を繼續したるが、案外に設備整頓して、彼活盛大に作業しつゝあり。經營成績は近年益々良好にて、上海に於ける我紡績工場は、三井系の此工場も、又內外棉、日本棉花會社系の工場も、俱に支那に於ては最優良の成績を示し居れり。上海紡績工場は設備擴張中にて、目下新工場の建築中なるが、近く落成の上は、全工場合計八萬五千餘錘を以て、大に能力を發揮するに至るべし。工場一覽濟みの後、扨て是れより何處なりとも、御勝手次第に自動車を走らせ申すべしとの御挨拶により、別に御遠慮も申さず、臆面もなく、左樣然らば、上海の郊外を縱橫無盡に走せ回り下されずやと申出でたるに、オールライトと許りに、繁華の街衢を突き抜け、郊外に出でゝ若芽の香床しき並樹道を右に左に疾驅する愉快は又格別にて、純西洋式の新公園やら、純日本式の六三園やら、純支那式の愚園やらを見物の爲めに、下車しては又走り、堂々たる洋風邸宅の建ち並べる佛國租界に出で、更に繁華なる英租界に戾り、夕刻歸宿致候。此夜月廼家のガアデンにて、三井物產より招待を蒙り、久し振りにて立派な洋の御馳走になり申候。

二十九日は三井物產を訪問し、君年ケリーッオルシュを素見して午前中を過し、午後は野田君の春日丸にて日本へ歸るを郵船碼頭に見送り、二三の人を訪問して宿に歸る。

卅日の午後、獨り飄然として上海北站に到る。上海呉淞間の汽車に乘る事が目的にて、呉淞線は支那に於ける、最初の鐵道として、支那鐵道發達史の第一頁を飾るべきもの、苟くも上海に來り、此鐵道を試みずして可るべけんや。上海より約十哩なる蘊藻濱（呉淞砲臺の手前に在り）まで二時間許りにて往復す。沿道の光景は東京より橫濱に行く如き感じを與へ候。此鐵道は英人が支那人に鐵道の効用を理解せしむる爲め、實物敎訓の目的にて千八百七十六年開通せしめたる所、墓地の發掘等にて支那人の反對を買ひ、遂に支那政府は此を買收し、鐵路を外して車輛と共に臺灣に送りて、遺棄するなどの事あり、後中國鐵路公司の手にて明治三十一年再び開通せし也。借問す支那の鐵道大に開け、効用洽ねく認めらるゝ今日、古老若し此の鐵道に乘り、當年無智蒙昧の狀を想うて感慨如何。

此夜韓相龍氏席を日本人倶樂部に設けて總領事副領事、三井、三菱、正金、鮮銀其他の代表者と併せて在滬鮮人の主なる者二十餘名を招き、懇親會を催し、內鮮人相互間の輯睦の爲めに斡旋努められ候。其の効果は必ずや大なるものあらむ。

●忠南米檢改正

忠淸南道に於ては今回道令第三號を以て米穀檢査規程を改正したるが其の重なる點は白米を加へたる點にして檢査地は論山郡論山、江景、大田郡大田、燕岐郡鳥致院、天安郡天安、牙山郡仙掌、洪城郡廣川にして優等上格下格の三級に分ち優等米は夾雜物玄米又は中白米に在りては籾砕米其の他百分の三以內米一升に付石の混入十粒以內白米に在りては搗精優良糠石粉を十分除去し稗の混入米一升に付十粒以內砕米百分の三以內にして其の他の夾雜物を混入せざるもの等にして附則を以て不合格白米は本年九月末日迄輸出移出又は道外へ搬出するを得ざる條項を猶豫せり又同第四號を以て大豆檢査規程も改正したるが特格上格下格不合格の標準により檢査を行ふ事とし特格は乾燥十分粒形一にして充實し光澤佳良品種を混せず夾雜物は百分の一以內一叺の量目は五斗又は四斗とし包裝は叺の重量七百匁以上掛繩橫四箇所縱二箇所以上とし一尋十一匁以上の繩を用ひ二箇所掛とす等なり（公州）

●大田中學敷地買收

大田 中學校に充當すべき敷地約一萬三千七十坪は目下敷地關係者の手にて買收交涉中なるが其場所は大田驛隊前にして地主二十七名地質其他の關係により多少の相違あるも普通一坪金三十五錢見當なりと（大田）

●京城最近民籍調

京城府 最近調査に依る民籍取扱事件三萬一千九百七十二件の中一月より三月に至る統計に就て見れば出生千八百二十一件、死亡千三百二十四件、戸主變更二百三十三件、婚姻三百七十件、離婚四十四件、養子十一件、分家五十七件、入嫁二十四件、一家創立三十八件、廢家四十四件、罷養一件にして前年同期に對比すれば多少の增減を免れざるも全年通計に於ては孰れも增加の狀勢を示せり

南言北語

獨逸が其の社會黨を使つて露國の社會黨を煽動して單獨講和をものにせうとして居る▲處が露國社會黨が其れと見せかけて置いて一發君の方では其う云ふが君の方で早く其の樣な專制的政治を罷めて民主制にしたら何うだ▲其れなら平和は直く來るちやないかと逆寄せに寄せた處は革命以上の大出來▲成る程其通り一日も早く獨帝を露國廢帝同樣にすれば講和も何も問題ちやない戰爭はスグ濟む譯だスラブギリ／＼結著獨逸の社會黨が平和を其れ程好愛すれば乞ふ先づ魁より民主制を實現すべしと云ひたくなるちやないか▲支那の大疑獄も黎總統の大英斷で財政總長陳錦濤君や次長殷汝驪君等を免職した▲然るに此の收賄問題の裏面には豫て獨探の嫌疑さへある男が潛在して居るのみならず▲其の疑賄は獨逸人の使嗾を受け收賄を摘發して段內閣を推し倒す陰謀であつたとも傳へらるゝ▲其うすれば陳君等は全く其の奸計に陷つたものだ何處迄獨逸の手が伸んで居るか知れぬ、物騷な事だ▲總選擧もヤツト舞臺を閉ぢたが聊か意外の結果らしく感せぬでもない▲其の樣な事は兎に角も取締が嚴重であつたにも不拘各候補者は大分散財をして居る▲大阪などでは一番金を消つて上田君などは五萬圓と云はれ言論戰で勝た白河君でも一萬五千圓は消つて居る▲池原君は落選代が一萬五千圓小林推吉郎君や木崎君は六千圓何うして却々落選代だつて馬鹿にならぬ

朝鮮製糖株式會社廣告

株式全部發起人及贊成人ニ於テ引受ケ一般募集ヲ爲サズ

朝鮮製糖株式會社ハ曩ニ朝鮮總督府ノ特許ヲ得不取敢會社ノ創立ニ着手致候處株式ノ申込定數ニ數倍スル好況ヲ呈シ從テ割當株數甚シク減ジ折角ノ御所望ニ充ツル能ハズ乍遺憾事情已ムヲ得ズ不得次第ニ付今回御通告申上候割當數ニヨリ更メテ申込所へ證據金相添へ期間內ニ便宜ノ取扱所へ御差出被下度候也

概要

一 設立許可　大正六年二月一日
一 資本總金額　金五百萬圓
一 壹株金額　金五拾圓
一 株式總數　拾萬株
一 證據金　壹株ニ付金貳圓五拾錢
一 證據金拂込期間　自大正六年五月一日 至同年五月十日
（右期間內ニ證據金ノ拂込ナキトキハ引受ヲ拋棄シタルモノト認ム）

大正六年四月十六日
朝鮮製糖株式會社
創立委員長 藤山雷太

拂込取扱所

東京 大阪 名古屋 下關 門司 京城 平壤 臺灣
日本興業銀行本店、第一銀行本店、三井銀行本店、三菱銀行部本店、安田銀行本店、豐國銀行本店、中井銀行本店、三十四銀行本店、第一銀行大阪支店、住友銀行本店、三井銀行支店、第一銀行支店、第一銀行支店、三井銀行支店、朝鮮銀行本店、漢城銀行本店、朝鮮銀行支店、漢城銀行支店、臺灣銀行本店
○朝鮮製糖株式會社創立事務所

鑛山用測量器械 京城本町 シンサキ

文藝倶樂部增刊
四月十五日發行 價卅八錢 稅二錢 半
お化と幽靈 百物語
■まよい駕…小金井芦洲
▼執念の竈…柳家小さん
▼禰襠脫ぐ音…錦城齋典山
▼美人茶屋…桃川若燕
▼灰吹の音…室井馬琴
▼足洗ひ屋敷…悟道軒圓玉
▼木葉狐…歐洲樓燕枝
▼上方之居…三遊亭圓右
▼紅孩兒…一立齋文車
■無量寺の怪猫…神田伯山
一夜泊り 雜錄
■騷唄…岡鬼太郎
△痛快料五十圓…武田穎塘
△鹿の哀音…生田蝶介
■桂子…中內蝶二
△春色二月梅…忠案外史
△裏さ階…殿谷小波
■上州よた栗毛…森曉紅
△新らしい怪談…川村花菱
△お化と先三つ鼎…菊五郎
△怪談柳きん鍋…川部
△花の網島見聞…江戸園
△天の綺ばなし…兒島孤雨
■東京本町 博文館發行 ■

謹告

壹岐國郷ノ浦
衆議院議員 牧山耕藏

不肖儀今回長崎縣下より衆議院議員候補者として出馬仕候處各位の深厚なる御同情を賜はり御高庇に依り大多數を以て當選致候段難有奉鳴謝候何れ改めて御挨拶可申述候得共右不取敢以紙上御禮申上候 敬具

…總計三萬三千を算し當選の大砲數は三百卅門の多數に達せり(四月京報)

日本の學校に支那の女教師
▽大連公學堂の王愛凝女史△

寫眞の佳人は大連公學堂の女教員で王愛凝(二九)さんといふ女先生です、日本語が巧みで東京女子美術學校の卒業生で

▽忘れ故郷は　支那の都の北京といふと、王女先生は公學堂で係日漢文と圖畫と刺繡とを教へて居る、試みに日本の衣服や縞柄などに趣味をお有ちかと訊くと『妾は日本服が大好きで學校の昨年の卒業式にも今年の春の卒業式にもそれあの通り日本服で寫しました……』と嬉[illegible]の大きな記念寫眞を指す、しかし

▽冬は支那服　の方が暖かいから怎麼著物をつけましたとニッコリ『妾と同じ樣ななつかしい友達は只今北京にも天津にも上海にも居ります、何れも當學校に奉職して居ります、支那の婦人も貴國の御婦人方のやうに學問しなければなりませぬ』と凛とした御挨拶、其の中に可愛らしい耳環の少女や支那特有の小さい纏足の子供などが

▽先生の周圍　をなつかし相にとりまいて來た、聞けば大連公學堂は關東都督府の設立した支那人の子弟を教育するところで修業年限は初等科四箇年、高等科二箇年、日本語は最も多く教へられる、此の學校は初め大連軍政署時代(去る明治卅八年六月)に設けられたもので

▽校舍は平屋　なれども煉瓦建ての堂々たるもの今の校長は日本人の中室藤吉氏である『今生徒の唱歌をいたしますから』とのおはなしに中央の講堂に這入つて見ると正面には有栖川宮威仁親王殿下の額が掲げられ『化民成俗』の四文字が記されてある、唱歌は最初支那式のもので後ちに流暢な

▽日本語の歌　となつた、見れば淺黄木綿の上衣を著けた男生徒の中には背の高い二十二三歳の青年が居たから聊か不審に思ふて訊くとそれは此の學校の速成科に入學して主として日本語を學修する子弟であつた、此の人達は日本語が能きると共にみな大連及び附近の日本人商店に雇傭される頭は八九分方斬髪である、次に女の生徒を見るとこれは只髪に

▽鶸色の毛糸　を結だばかり足の大きい少女になると鳥渡男生徒と區別がつかぬ支那の女でよく學校などに登校しますね』と感嘆すると『今の女はちがひます』の返辭である、それに第一子供の方が遊び友達があつて學校の方をよろこびますとのはなしであつた、裏にはまた生徒卅四五名を收容するに足る

▽寄宿舍の設　けがある、授業料は一年一圓二十錢をとる、しかし最初は入學者がなくて困つたが今は總數五百卅七名申込者に過剩が出來てお斷りするのに困るといふ教科書は朝鮮總督府編纂のものを聊か直して使用する、斯の如くにして日本の租借地關東州の支那人子弟は教育されてゐる。(二十日大連にて金谷生)

盛なる式典
京城神社大祭と餘興の數々

京城神社攝社南山天滿宮にては來る二十五日午前十時半より同社頭に於いて天滿宮恒例大祭を執行する事となれるが氏子總代の結果四月二十五日を以て例年春季大祭例日と決定し本年はその第一回なるを以て

◆最も盛大に　行ふべく氏子側にても二三日より非常に意氣込み居りその餘興等に就いても寄りく協議中なりしが二十三日までに殆んど決定したるが別項記載の式後拜殿に於いて南山町京城觀世會松齡會の中有志の奉納仕舞、同所に於いて都山流尺八師匠佐藤都令氏の三曲合奏『春の曲』あり、又

◆境內餘興場　にては午後一時より中券藝妓連中の奉納手踊り京城有志連中の博多仁輪加、同各町有志の素人大角力あり素人角力は一時より夜にかけて盛んに行なひ飛入り勝手なりといふ、而して式典開始の際より氏子有志より寄進の煙火數十發の打揚あり尙亦夜中は京城電氣會社より寄進のアーク燈多數を點じ

◆皎々晝を欺　く盛觀を呈するに至るべく境內を中心として咲き揃へる櫻花と共に頗る美事なるべく而して社殿は午後六時まで開扉し置くを以て一般市民の參拜を大いに歡迎すべしといふ、當日の式次第左の如し

午前十時半齋主齋員參入其他氏子總代一同著席△[illegible]△[illegible]奏樂△[illegible]

法主一行出發

大谷派本願寺法主光演師は隨行長南條博士等一行を從へ二十三日午前五時二十分京都發滿鮮視察の途に就けり(京都特電)

落選して違反

京都府郡部落選者木村艮氏は選擧法違反にて二十三日收監さる(大阪特電)

露國は公娼を全廢せん

露國新政府は極東內外人公娼全廢意見ありハバロフスク市の如き之を斷行せる由而して露國にても近々日本の公娼四百名を本國に送還す可しとの說あり、爲めに常業者間に一大恐慌を來しつゝあり(大阪特電)

誘ひ出して騙る

京城積善洞金義鉉方同居李寬玉(四二)外一名は告吉町鑛業兼貿易商山內兼吉に對し忠南地方に鑛物穀物等の程よき賣物ありと欺き昨年十二月二日同人を忠南瑞山郡以城面邑內里に連れ出し山內は同地の宿に於て越はる方に滯在し三名共へて商况視察中寬玉等は山內に對し玄米六十石大豆十石の穀物あり之を買收すべしと現金四百二十圓の資金を騙取したる儘兩名共逃亡したるより北部署に屆出で瑞山署にて各地に手配中寬玉は此程忠南禮山邑內に潜伏中を禮山分隊の手に逮捕されたり

揃つた亂暴者
谷間に墜ちて腕を折る

京城光化門通居住無職徐相雨(三九)櫻井町二丁目居住鉞力職工金聖潤(三三)兩名は惡意なる所より共に十五日飮酒酩酊し奬忠壇を逍遙し午後四時頃同所に新道路開鑿工事中なる場所に侵入し工事人夫等が盛土をなしたる土端の上に登りて躍り廻り土堤の一部を破損せしめたるより從業中なる人夫頭金炳洙が其の不都合を詰りたるに兩名は反對に食つて蒐り論爭中の現場へ工事監督なる櫻井町一丁目居住姫野親太郎(三八)が來合はせたるに件の兩名は親太郎にも怒鳴り掛り相雨は拳骨にて親太郎を撲りつけ聖潤は石を拾つて親太郎の眉間に投げつけ治療休業十二日間を要する裂傷を負はせて逃走したる際聖潤は谷間に墜落して腕を挫折したるが此の樣子を現認したる同じく工事監督なる黃金町三丁目居住の松田熊吉(三四)が加害者兩名を取押へ本町警察署に突き出したるが兩名は取調べの上檢事局へ送られたり

熱い油を耳に
女房を殺さんとす

慶北奉化郡春陽面西碧里居住の農金龍鎭(三十)は妻權新蜆(二五)が癩病の持病あるより同女と同棲するを厭ひ密かに殺して了はんと三月廿六日夜十二時頃妻權と同衾中秘かに床の中より脫け出で匙にて胡麻油を煎じ之を眠れる妻權の右耳に注入し殺さんとしたるも手許狂ひて煎じたる油が耳の奧に入らずして目的を達せざりし事數日前に至り同地憲兵に探知され殺人未遂として目下取調を受け居れりと

十五歲の泥棒
釜山市中を荒らす

釜山富平町小間物商矢部宗太郎長男潤一(一五)は尙甲十二三歲の頃より盜み癖あり親も持て餘し居り尋常科六年にして釜山公立某小學校をも退校されたる程なりしが去る十八日午後二時頃寶水町一丁目某補綴屋の門先にて空檣一個を盜み西町三丁目大隅古物屋に六十錢にて賣り買ひ喰ひに費消したる事を探知され釜山警察署にて取り調べの結果何ヶ所に於て空檣を盜み或時は郵便配達夫が手にせる現金三十錢を奪取する等子供に似ぬ大膽なる行爲あり一昨年六月頃商品陳列部にて賣揚金十二圓餘を盜みし等凡て十五件に達し其の少なからぬ金は全部芝居、活動寫眞、買喰等に費消しゐたる事を自白せるが未だ責任年齡に達せざる故將來を訓戒して實父宗太郎に引き渡したり(釜山)

城壁より墜つ

二十二日午後八時頃京城御成町有元利平方の路上に漢陽公園に通ずる城壁高さ四間位の所より一人の男が墜落したるを發見し本町警察署に急報したるより係員出張檢視せしに件の男は東京四谷坂町生れ當時南大門通五丁目河村運送店雇人海老原識(三一)といひ飲酒酩酊して通行中墜落したるものと判明し雇主が引取りて安東醫院に入院加療中なるが生命危篤なりと

若き妻の放火

忠南唐津郡鵰背面彩雲里宋壽鳳妻李姓女(一八)は夫が居宅を賣拂ひたる爲め同里の李泰汝方に同居中家人と喧嘩の末本月七日夢泰汝方に放火したるも卽時消止められたるより翌八日夜又もや放火して遂に同家を全燒せしめたるが李姓女は間もなく唐津署に檢擧取調べの上檢事局へ送らる

曲者民に掛る
憲兵補助員を襲ふ

慶南鎭海憲兵分隊熊川派遣所の憲兵補助員金秀龍(三五)が私服にて九日午後十一時半頃金海郡家山面智土里より昌原郡熊東面馬川里に向け熊川街道を通行中道伴れとなりたる怪しの男は附近に人なきを見透まし秀龍に組みつき同人の著衣を引剝がんとしたるより格鬪の末秀龍に取押へられ派遣所に引致取調べの結果釜山沙下面槐井里生れの王基永(三三)といひ取調べの上檢事局へ送らる

困つた宗教家

黃海道松禾郡長陽面坪洞基督教會執事權仁錫(三五)は去二月五日豫て懸想せる同教會信者にして同洞に居住する農楊光善の妻邊學恭(一八)宅に至り教會に於て朝禱あれば參拜すべしと巧に光善を欺きて連れ出し置き已れ一人光善方に引返し寢室にある學恭を辱めたる事光善の知る所となり四月二日海州地方法院檢事局に告訴したるが四月十日懲役三年の宣告ありたり(平壤)

本社主催 南北滿州視察團

日露の戰跡を過りて
春風に駕して一路長春へ

湯崗子溫泉に旅塵を洗ひたる一行は二十二日夜半、星を戴いて清林舘を出で午前三時五分發列車にて哈爾賓に向ふ、途中撫順奉天驛を通過し遼河々畔の鐵嶺を經て午前九時四十分開原を通過す、汽車は其より北上するに從ひ、平野萬里漠々たる地平線の彼方には東蒙古の大原野橫はり、又日露戰役當時、假休戰條約を結びたる泉頭、滿井間の遺跡を始め沿線は日露戰役最後の大交戰地として感興頗る深し、汽車は北上するに從ひて愈々蒙古的氣分に露西亞的氣分を加へ、現下工事中の四鄭線の分岐點たる四平街驛通過の後は更に蒙支軍の紛戰地郭家店を過ぎ午後三時三十分長春に到著す、一行は二十四日午前一時三十分哈爾賓著の豫定なり(二十三日長春にて特派員金谷生發)

姉妹共に溺死

平南江西郡水山面金用鍵三女金日官(九)は去十三日午後一時頃同面を距る南方約二丁の溜池附近にて遊び居たるが過つて池に落ち込みたるより其れを眺めたる姉の金他官(九)が飛込み救はんとしたるも水深六尺の處とて遂に姉妹とも溺死を遂げ屍體は檢視の上父親に引渡さる

炊事中に發狂

釜山富平町一丁目牧斷助內縁の妻千葉ちよの(三二)は本年一月頃より精神に異狀を來したるより醫師の治療を受け其後稍や回復し去る十七日も早朝起き出で炊事に取掛りたる儘家出し行衞不明となりしより夫斷助は大に驚き諸所を搜索せるも見當らず十九日釜山署に保護を願出でたり(と釜山)

申譯けに投身

全南高興郡高興面玉下里高興郡廳小使沈安洙妻某(三九)は十七日午後九時頃亭主が外出中隣家の鄭明三(二七)と云ふを引き入れ居るを亭主に發見せられ男は風を喰て逃げたれども女は痛く叱責されたれば前非を悔い申譯けなしとて飛び出し郡廳前の井戸に投身自殺を計りたるも幸に渦水にて一命を取留めたりと

身の錆から

長崎縣北松浦郡生れ池田元助(三一)は大正二年八月二十八日公文書僞造罪により平壤地方法院に於て懲役二年の處刑を受け大正四年三月平壤監獄を出獄するや鎭南浦三和町原田某の經營に係る鑛石買入所店員に雇はれ買鑛資金として店主より渡されたる金五百圓の內百二十六圓六十八錢を橫領し遊興に費消し三月二十日平壤紅梅町宿屋業本木龍海より負債金三十圓の支拂を嚴談され其支拂に窮し安州郡新安面田方より借用中の腕時計及び平安北道宣川郡宣川邑內松本源吾より借用中七十五圓の自轉車を抵當に入れたる事發覺し此程其筋の手に捕はる(平壤)

內地旅行中の處歸所仕候
辨護士 特許辨理士 高橋章之助

出火二件

二十三日午前十時十八分頃京城林町二百三十三番地金重鎬方より出火し藁屋根三間分を燒失し隣家二百三十番地金善永方に延燒し溫突一間を燒毀したるも常備消防隊出動消止む又同日午前十一時十分頃永樂洞二百九十二番地李雄烈方溫突の焚口より松葉に延燒し溫突二間を燒失して隣家孫春峰方に延燒し一間を燒失して同三十分鎭火せり

…を生ぜしのみならず從前は滿底階段式となり水深き船舶の繫留に不便…て著手の豫定なりしが滿鐵興業費削減の結果一ヶ年延期となりたり此改…工事完成せんか是等の不便を除去さるゝは勿論上屋も永久倉庫に順次改築の方針なり…られたるが客車の…の如くなるべしと

▼本線 [illegible]

△安奉線 急行 [illegible] 午前九時○五分 [illegible]

…少の移動ある可く朝鮮鐵道京奉線急…

四月二十一日夜奉天…

競爭入札購買
一、電話機
一、集配嚢叺類
詳細四月二十三日ノ府官報ニ依リ
朝鮮總督府遞信局

謝近火御見舞
龍山漢江通七番地(元京町)
近江屋 小澤吳服店

謝近火御見舞
龍山漢江通七番地(元京町)
鉞力商 上月李三郎

謝近火御見舞
龍山漢江通七番地(電四三九番)
陸軍御用達 廣島屋支店

謝近火御見舞
龍山漢江通七番地(元京町)
小間物商 山田鶴次郎

謝近火御見舞
京城府漢江通七番地
高等理髮師 近藤長平

謝近火御見舞
龍山漢江通七番地(元京町)
和洋雜貨商 村上商店

謝近火御見舞
龍山漢江通七番地(元京町)
履物商 森脇商店

昨日粗相の際は早速御馳付御盡力に預り以御蔭大事に至らず候段難有奉深謝候混雜中御尊名御伺洩も可有之乍略儀以紙上御厚禮申上候
四月廿四日
龍山漢江通七番地 むしぶろ

夏物紺セル洋服賣出
一等 上下三揃 三圓八十錢
二等 同 二圓八十錢
三等 同 一圓五十錢
鐵道拂下品 其他軍隊拂下品各種和洋古着類荷揃
右例年通り特別廉價販賣
和服洋服商 金子輿市商店
龍山元町二丁目 電話百〇五番 振替京城三八一三番

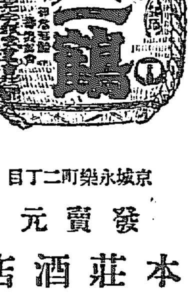
タリヤカンナ
カタログ無代進呈
京東 京城西大門外竹添町二丁目 千草園分園

◎軍隊拂下被服類
○毛布貸付の御依頼に應ず
メリヤス○シャツ サルマタ○ズボン下
其他年殘品多數大見切にて販賣可仕候
京城北米倉町電話千百十二番
雜貨メリヤス卸商 村上商店

父嘉造儀病氣の處養生不叶本日午後六時死去仕候間此段以紙上御報知申上候追而葬儀の義は途中葬列を廢し明廿四日午後正四時西本願寺に於て施行可仕候
大正六年四月廿三日
男 大樂嘉一郎
親戚總代 神田重雄

東京藥學講義錄
藥劑師志望者又は藥學を研究せんとせば速に本講義錄を讀め獨學にて充分目的を達す
神谷藥學士 有賀藥學士 小島藥學士 稻田藥學士 村山藥學士 大河藥學士 望月藥學士 外專門大家 執筆
此際三大特典提供 一講義完結 [illegible]
見本申込次第進呈
東京神田三崎町 東京藥學會

松丸太杭木用竝に建築材料
今般湖南線井邑驛前に派出所を置き現今數千本の出材致有之候間多少に不拘御用命之程願上候
三幸洋行井邑派出所
營業種目
杉丸太(足場用材)長尺物 日本檜材(荷車用材)各種
鮮松大丸太(造船用適材) 赤身勝長五間內外 末尺五寸以上二尺內外
杉皮(土居葺用) 青竹竝に建築材料一式
朝鮮京城 岡崎町
三幸洋行
電話二八〇番 振替口座京城三〇九五番

優等清酒

京城永樂町二丁目
發賣元
本莊酒店
電話六五四番 振替京城六二〇番

下痢腹痛には、ヘルプが……第一安全

下痢の原因 は多く不消化と黴菌作用に起因するを知らば藥劑の選定に充分なる注意を要す
●然るに從來の賣藥は單純の收斂劑にて殺菌の用意ある物なし
●柏村博士のヘルプは此缺點を考慮配劑せし他に類なき殺菌性下痢止腸胃藥なれば一般下痢に應用して奏効迅速且安全也

殺菌力絶大なる
下痢止腸胃藥

主治効能
●食傷●食過●時候あたり●水あたり●寢冷●冷腹等腸胃の故障より起る■消化不良■下痢■腹痛■吐瀉■泄腹■腹死斯を止め■腸加答兒■胃加答兒を治す

本舖 東京日本橋本銀町三 振替東京八六四番 津村敬天堂
(ヘルプは全國到る處の藥店に販賣す)

定價 二十錢 三十錢 旅行携帶用 五十錢 徳用 一圓 二圓五十錢

★
資本金五百萬圓
頭取 安田善三郎
京城本町壹丁目
株式會社 百三十銀行 京城支店
電話長五八番 京城一九四番 振替貯金京城二一三番
銀行一般の業務精々御便利に御取扱申候爲換取組先は內地各方面並朝鮮樞要の地有之候

怒濤の月

小林蹴月作　武内桂舟畫

百四十四

葉櫻の蔭『二十八』の五

果して、薄暗い葉櫻の蔭から、のそり然とした一個の男が出て來た。手には柄の長い竹箒を携へて居る。

幸三郎は、その姿を一見して、運轉手の塚本竹造である事が分つた。彼は、蓋し、主人閣下が不在の爲めに身體が閑で困つて、退屈凌ぎに庭の掃除でも爲て見やうと云ふのであらう。いなせな双子づくめの小意氣な容子を爲て、護謨裏に華奢な緒のすがつた草履を爪先へ突つ掛て居た。

『倉橋先生、御退屈まぎれの庭内御散歩を見ねますね。』

塚本は、十年も飼つた狆ころのやうに、ころ〳〵と爲ながら幸三郎の居た花見臺の欄杆の下まで進んで來たのである。

『は、は、は、塚本君と云ひましたツけね、君は。つい染々とお話する時がなかつたもんですから……。』

『いや、私も一應は先生にお目に覚つて、彼の時のお詫を述べたいと思つとりましたが、鍾子夫人の問題以來、自動車の運轉手は悉皆危險人物のやうに見做されて了つたもんですから、何事に依らず遠慮して居りました所です。』

『そりや語らん遠慮と云ふもんだね、まあ、此處へ掛けて話でも爲給へ。』

『へい、お語け難有う御座いますが、そろ〳〵日が暮れかゝりますんでね……。』と、塚本は、口先で辭退しながら、花見臺へつか〳〵と上つて、今方まで椅子の腰を卸して居た腰掛の片端へ尻を据ゑつゝ

『倉橋先生、彼の節の事は、眞個心にもない過失なんですから、御勘辨を願ひたう御座います。』

『君、濟んで了つた事を、今更に及んで勘辨も不勘辨もないぢやないか。此方も半犯亂の有様に醉つて居つたので、ついあんな事になつたので、僕の方ではもう君の事なんかを氣にも止めては居ないんです。』

『それならば、手前も實に幾倖と云ふもんで御座いますが……併し、彼のお怪我が縁となつて御富家の令孃の屏風とかをお描きになるやうなお話が出來たんださうですが、もう近々に御出來になるんで御座いませうな。』

『什うして〳〵。御出來どころか、まだ下圖すら出來得ない始末ですから……何時の事やら分りや爲ません。だもんだから、今も實は、奥樣に捉つて、ぎゆう〳〵と云ふ目に遇はされたやうな次第でね……は、は、は、……』

『見給、畫工なんかになつて、此の苦痛を爲る位なら、自動車の運轉手の方が、餘程の活動があつて、面白かつたかも知れんですね。』

幸三郎の居から出た戯れの語としては、先づ秀逸の部であつた。

『先生、お冷かしぢや困りますね。へ、へ、へ、へ。』と、運轉手は、如才なき高笑ひを見せつゝ

『同じ手先の仕事にや違ひありませんが、把手機と筆とぢや、大分格式が異ひますからね。そりや然うと先生、お話は飛びますけれども、今度の奥樣と云ふ方は、大分畫の事が分つてもお在のやうだし、又從つて畫家の方がお好きのやうなんですが、先生なんかも矢張前々から御懇意の仲なんだと見ねますね。』

『いや、僕は別段前々からの御懇意と云ふ譯ぢやないんですが……一度一寸お目に懸つた縁故があるんです。』

幸三郎は、何の意味もなく、有の儘に答へたのである。

『然うでせう。什うしても昨日今日のお馴染ではないやうに思つてましたんでね。へツ、へ、へ、へ。』

『何故です塚本君、假りに前々からの御懇意とした所で、差支へはないぢやありませんか？』

『そりや大きに然うで御坐いますけれども、先刻からのお話だけでも、大分と味ひが深いやうにお聞き爲ましたので……つい閑談なんて譯ぢや御坐いませんけれどもね、へツ、へツ、へ。』

塚本運轉手は、狎りと妙な笑ひを引付けて、加之に、幸三郎の顏をにた〳〵と視ながら皮肉らしい事を言ふのである。

『味ひとは何の事ですかね、奥樣が、僕の怪我以來非常に同情を表して、骨肉も及ばぬほどの斡旋盡力を爲て下さるので、僕の方でも自然それにお酬い爲たいと云ふ思慮丈は持つてるのですけれども……。』

『其處で御坐いますよ先生。手前なんかには毛頭お隱しになる必要はないんで御坐いますから、何も彼も御安心の上で、お話になつた方が宜いと云ふもんで御坐います……』

聞けば聞くほど、その言ふ所が、乙に絡んでひねくれ出して來たので幸三郎は、例の猾介偏狹的の癖から覺えず勃然として塚本の手首をぐいと握つた。

東京 京城本町一丁目
五月幟 外幟、座敷幟 二圓半位乃至十圓位迄各種
サクラヤ

貰つた親の大喜び
五月人形よりも 坊チャン孃チャンへ
可愛らしき 帽。服。
小供服専門 附属品一式 調製
電話取次三七九番 コドモヤ

氣候の變り目に
人蔘キャラメルを
御愛用あれ

趣味の友を懐ふ　靈洲

○人生不可無惡之樂とは故吉識公の至言なり、人長生するも只衣食に汲々として利欲一點張りに終らんか寔に目的の那邊に存するを知らざるのみならず、寧も人生の興味なる所以を見るべからず、否又實に天與の恩寵を顧くし其の幸福を享受する能はざるの愚者のみ、蓋し春花秋月の興味機嗣の樂は自然と合致し古今に通鑑し渾々窮りなきの道味あり、人は之あるに由りて高尚に之あるに依りて幸福に生存するあり前東拓總裁陽山君殊に書畫骨董の嗜好深く予は此點に於て相知同樂の友人たりき、昨秋十月永樂町の邸宅に氏の病を訪ふや邸庭に照り菊花の部に閑き秋晴の氣、佳趣言ふべからず、氏は已に既に死を近く東歸の意を決し行李も已に整頓して了したる語れり、予は氏が病苦無聊の間に探つて生平の趣味深きを悲ッべしと謂れるに氏は首肯して且つ日く實に然り會心の得品枕上に在れば遙かに苦悶の存するに優れり、只惜むらくは此品の全部已に荷造りし札還復た一物を留めざるを奈何せんと、而して後ち數日氏は途に病を冒して東上の途に上りしが形骸看門に達せざるに於て遂に再び此土に歸らざるの人と爲りき、御米島兎未だ半途ならざるに於て遺品の全部は東都の市上に競賣し去らるに到る…（以下判讀困難）…也。

□家庭と樂器

◇家庭音樂に和洋の二つがあつて、和流には琴、三味線、胡弓、長唄、清元、常磐津、さては謠曲など、種々なものが行はれてゐます、そのうちでもお宗旨以外の日本音樂は何方かと云へば若い娘達の間に餘計に勢力を持つてゐるやうですが、

◇西洋音樂になると谷なき六分さう云ひ度く、まだ眞なる若手としては餘程、婦人何れも一様に伸びた譯のあると思います

◇家庭に常々愛用さるゝ樂器は手輕いからヴアヰオリンが眞先に入りますがピアノも近來大分に行はれて來ました、東京などでは自動ピアノが昨年の夏以來多く備へられてゐるさうです

◇手輕い樂器では大正琴が大人子供の別なく中流の家庭で勢力を持つてゐます、子供といへば東京で

◇子供の玩具の樂器ばかりの合奏がそろ〳〵流行りかけてゐるとのことです、原始的な稚氣のあるこの合奏も亦、時に面白からうと思ひます

□奉恩寺まで　靜軒

四月二十一日漢江の對岸奉恩寺に遊ぶへく、鍋島より船を傭ひ江風を浴びつゝ遡る、江岸の柳色新にして砂白し。

春の日のゆるく流れて船遊し

一行に彩帳を深つて寫生を試むるものあり、假裝にオドケな戲するものあり、俗謠を唄ふものあり、興趣頓に加はる。

山に介む杏の村や船に見る

花疑貧乏徳利傾けて

船を奉恩寺下に捨て同寺に賽す、解脱門前既に櫻花の散るを見る。

花吹雪解脱の門を潜りけり

同寺を辭し再び船にて歸路に就く、斜陽江を照らして風物々寥し。

春の日の佛照らすや大伽藍

行樂に春の入日の江寒し

——六、四、二三——

新刊紹介

▲一大帝國（寺内々閣第二彈劾號）島田三郎、永井柳太郎、武富時敏、大隈重信、其他諸名士の現内閣彈劾論載（十六錢東京芝琴平町二其社）

▲教育の實際（四月號）講演、研究、教材、新學年始の各部門に分ち各府縣の教育實際家の教授上其他に關する事項を收む（二十五錢東京日本橋本石町三其社）

▲學校教育（四月號）未來派の繪と子供の繪、戰後の理科教育問題、大島鎮治其他小學教育に關するもの數種（十八錢東京日本橋本石町實文館）

京日案内

普通 一回前金（活字一回）五十錢　番外 一回前金（號名一回）

▲申込後中途廢止の節は返金せず ▲六回以上の前中込には特に割引す ▲御照會は返信用郵券にあらざれば回答せず ▲御照會の節は必ず數字の番號御記入を乞ふ

◎十四歳の田舎娘子守若くは行儀見習として良家に雇はれたし（姓名任社）3

◎有給外交員二十歳位教育ある者市内引受人を要す履歴書郵送 京城並木町二〇番東洋督會支部 9

◎配達人數名至急募集希望者本人來談あれ但市中確實なる保證人を要す 龍山漢江通り 町田新聞部

◎看護婦見習募集 希望者來談 シメノウチ病院 6

◎金銀細工職人二名入用 京城商木商店 968

◎賣家 京城鐘路北部宅地共山水眺望絶佳希望者御來談 龍山…（判讀困難）

◎體質強壯心身の疲勞回復は御來店 京城明治町中央病院…（判讀困難）

◎諸橋啓治 右の者自今弊行と關係無し此段廣告す 大正六年四月廿二日 京城本町一丁目 勝山洋行 4

幸田豐君に告ぐ　直ぐ通信せよ　京城 志岐組 956

裁縫の心得ある者入用 希望者は履歴書携帯本人來談 京城旭町一丁目 コドモヤ洋裁店 8

外交員入用 京城黄金町二丁目永樂町一丁目 朝鮮研究會出版部 10

見習看護婦募集 希望者は履歴書携帯本人來談 京城本町一丁目 石川醫院 904

◎礦物定量分析 太平町二丁目 朝鮮公論社 左横小路 坂元分析所 960

恩給年金立替 御時取引退隱料一切千圓以上別契約 京城櫻井町（大正館向）元祖 博多屋本店 911

最新刊

書名	著者	價	送
詳細漢和大字典	服部宇之吉・小柳司氣太	特二、三〇	
死の蔭に	徳冨健次郎	一、八〇	
最新商店の組織及經營	依田信太郎	一、〇〇	
支那民の經濟對日要求	手天才		九五
聖徳太子傳	樋口龍峡	一、〇〇	
日蓮聖人	綱島梁川	一、二〇	
三浦の安針	加藤三吾	一、三〇	
草合	夏目漱石	一、三〇	
教育と修養	中島力造	一、〇〇	
臨濟録講話	釋宗演	一、二〇	
柳浪傑作集	廣津柳浪	一、二〇	
實用支那語教本	本田清人		八〇
簡易生活	田尻稻次郎		八〇
美文資料自然と人生	久保天随		五〇
つれびき	田山花袋	一、〇〇	
半農生活	五十嵐力		六五
義太夫集上、中、下	海賀變哲		五五
草花の作り方	伏木保次郎		五五
八重むぐら	五十嵐力		六五
德川幕府御秘藏碁戰	本因坊秀哉		八五

京城本町一丁目 大阪屋號書店 振替京城二五七三番

內科 胃腸病　診察夜九時迄　京城本町一丁目　石川醫院　電話一二三七・九二〇九番

藥種賣藥卸商　Ⓚ　仁川本町 北島藥店　電話三三四・振替京城六七番　京城本町一丁目永樂町角 北島藥店支店　電話七六一番

醫化學諸器械一式

資本金壹百萬圓　株式會社 京城 漢湖農工銀行　支配人 遠山熈
支店所在地（開城、春川、大田、江景、公州、清州、忠州、論山、鐵原、鳥致院）
不動產抵當ニテ長期低利ノ貸出致候　普通銀行業務は確實親切に御取扱可申候

◎當代獨特の警世の奇觀犀利の筆を以て現代の道樂を解剖し或は大に奬め大に自省せしむる大に遊び大に笑ひ大に強く現代を諷刺し指覺せしむる近來稀有の快著也
堀內新泉先生新著　當世百道樂
（定價一圓廿錢 送料八錢）
京城太平通二丁目 振替京城三〇〇番 京城日報社代理部 賣捌所

營業品目
肥料部 魚粕、骨粉、乾血、鯡粕、星印配合肥料、細工用地骨、細工用諸角各種膠及膠原料
石鹼部 化粧用石鹼、洗濯石鹼、工業用、家庭用石鹼、椰子油、鯨油、牛脂、油脂類、當任曹達、洗濯曹達
京城東大門外新設町 朝鮮肥料製造所 電話二六三五番
京城西部町一四番地 朝日石鹼製造所 電話二五六三番・九七〇・振替京城三〇四番

京城永樂町二丁目（商品陳列館裏門通）酒井婦人病院　院長 酒井一郎　入院隨意　電話一六〇八番・二六〇〇番

攝津灘 大塚釀造所吟製　發賣元 京城本町二丁目 前田酒店 電話一三七番・振替口座四二五番

最上醤油　朝鮮仁川府　高杉醤油釀造場

大邱浦項間自動車時間
大邱浦項自動車所 大邱出張部 電話一一七番

金泉尙州間自動車時間
金泉織居自動車支部 金泉電話四八番

尼崎汽船仁川出帆
○群山、木浦、釜山、下關、神戸行 有馬丸 五月二日 日后四時出帆
○大連行 かご代丸 五月四日 日後四時出帆
○秀吉丸 四月三十日 日後四時出帆
○神代丸 日後四時出帆
仁川海岸通二丁目 高杉回漕部 電話五番

日本郵船仁川出帆
大連行、太沽（天津）牛莊行 相模丸 四月廿二日 正午出帆
○撫順丸 五月十二日 正午出帆
○三河丸 五月二十一日 正午出帆
仁川海岸町 堀回漕部

汽船釜山出帆廣告
○門司、神戸、大阪行 和歌浦丸 五月七日 日後五時出帆
○立神丸 四月廿六日 日後五時出帆
○元山、清津、浦潮行 和歌浦丸 四月廿五日 日後十時出帆
○立神丸 五月六日 日後四時出帆
○元山、西湖津、新浦、城津、清津行 第三琴平丸 四月 日後六時出帆
○門司、宇品、神戸、大阪行 第三琴平丸 五月 日後六時出帆
○佐須奈、嚴原、壹岐、博多行 毎月二日、九日、十六日、廿三日 日後十時出帆
○天草丸 毎月十四日 午後十時出帆
釜山港埋立新町 本郵取扱店 大池回漕部

朝鮮郵船出帆
本社電話長一九五一、一三二番 ○鐵道會社及社外船の連絡運送の便あり詳細は支店、出張所、代理店、御取扱店に御照會を乞ふ
京城南大門通 松原運送店（電話七〇〇番）
○江原丸 四月 日 釜山發
○京畿丸 五月 日
○黃海丸 四月 日
○咸鏡丸 四月廿九日
門司より釜山各港寄港浦潮に航す
○穩城丸 四月廿九日 元山發
○昌平丸 四月 日
○鏡城丸 四月 日
元山より各港寄港清津行
○昌平丸 四月 日 元山發
○慶德丸 四月 日 釜山發
○江陵丸 毎日 釜山・浦項發
○三浦丸 四月廿四日 釜山發
○海州丸・納盧丸 四月 日 釜山發
○巨濟丸・慶寶丸 毎日 釜山發
○平壤丸 四月 日 元山發
○順天丸 四月廿六日 木浦發
○慶興丸 四月 日 木浦發
○公州丸 四月 日 木浦發
○江原丸 四月 日 仁川發
○麗水丸 四月 日 仁川發
○晉州丸 四月 日 仁川發
○宗信丸 四月廿六日 仁川發
○全南丸・錦陽丸 毎日午前 仁川發
元山代理店 南大門 河村運送店 電話二六八、三〇七
仁川代理店 田口回漕部 電話二四〇七番
京城取次店

共同汽船仁川出帆
阿波共同汽船株式會社 本町四丁目 野口商會 電話一七三番
○之栄、大連行 伏見丸 四月廿二日・四月廿四日 正午出帆 後入港

大阪商船仁川出帆
○外航各所臨航路（詳細は御問合せを乞ふ）
◎群山、木浦、釜山、門司、神戸行 信濃川丸 四月廿八日 日後五時出帆
××◎汕頭丸 四月
◎須磨丸 五月五日
◎天草丸 木浦、釜山、門司、神戸、大阪行 四月 日後二時出帆
×◎福州丸 木浦、釜山、鎭南浦行 四月 日後二時出帆
◎安東丸 木浦、釜山、嚴原、鷄の浦、長崎行 五月二日 日後二時出帆
××◎安東丸 五月二十日
◎濟州丸、潮州丸 群山、釜山、浦潮行 五月三日 日後二時出帆
××◎須磨丸 群山、神戸、大阪行 四月 日後二時出帆
◎鎭南浦、大連行 安東丸 四月廿七日・五月十五日 日後二時出帆
◎大連直航 濟州丸 四月廿八日 日後二時出帆
××◎宮島丸 西湖津、新浦、城津、清津行（元山出帆）四月廿九日 日後十二時出帆
◎清津行（元山出帆）安平丸 四月 日後十二時出帆
◎上海、基隆、打狗行（大連出帆）湖北丸・基隆丸 五月三日 日後四時出帆
御注意 ●朝鮮郵船及び南滿洲鐵道會社と聯絡の切符發賣所 大阪商船會社仁川支店 電話七〇・五五八番
切符發賣所 內國通運會社京城支店 電話二六一番
切符發賣所 開一貫旅館

▲依然小堅し　▲後場の手振　▲の商內　▲尚動機待ち　▲現物界（商況・大阪株式特電・相場表　判讀困難）